



# 1080P フルHD Smart Security System

警告ライト搭載防犯カメラ

# 重要情報

## FCC認証

本機器はテストの結果、FCC規則のパート15によるクラスBデジタルデバイスの制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地区で設置された場合に、有害な干渉から適正に保護することを目的としています。本機器は、無線周波エネルギーを発生、使用し、また放射する可能性があり、取扱説明書に従わずに設置および使用した場合、ラジオもしくはテレビの受信に有害な干渉を及ぼす原因になります。これは本機器をオンとオフに切り替えることにより確認することができます。本機器が原因の場合、次の方法をいくつかお試しになり、干渉を修正することをお勧めします。

- ・ 受信アンテナの方向あるいは位置を変える
- ・ 本装置と受信機の間隔を広げる
- ・ 本機器を受信機が接続されている回線とは別のコンセントに接続する
- ・ 販売元あるいは熟練したラジオ/テレビの専門家に問い合わせる

これらのデバイスはFCC規則の第15部に準拠しています。操作は次の2つの条件に従います。

- ・ 本デバイスは、有害な干渉の原因となってはならない
- ・ 本デバイスは、望まれない操作の原因となる干渉を含め、受信したいかなる干渉も許容しなければならない

**重要な注意:** 全ての管轄区域にはカメラの使用に関する特定の法律および規則があります。何らかの目的でカメラを使用する前に、カメラの使用の禁止あるいは制限に関して適用されるすべての法律および規則を認識すること、および適用される法律を遵守することは、購入者の責任となります。

## FCC規制(米国向け):盗聴の禁止

合法的な権限の下で行われる法執行官の業務を除き、本パートの規定により、直接あるいは間接であっても他人のプライベートな会話を傍聴あるいは

録音を目的として操作されるデバイスは使用できません。ただし、その使用が当該会話に係るすべての当事者の同意を得た場合を除きます。

**警告:** 製造元が明示的に承認していない変更や改造が行われた場合、本機器を操作するためのユーザー権限が無効になる可能性があります。

## 安全に関する重要な注意事項

- ・ 配線および端子が露出している場合は操作を行わないでください
- ・ デバイス側の通気口をふさがないようにするとともに、換気のために十分なスペースを確保してください。
- ・ DVRに付属の電源アダプタのみ使用してください。

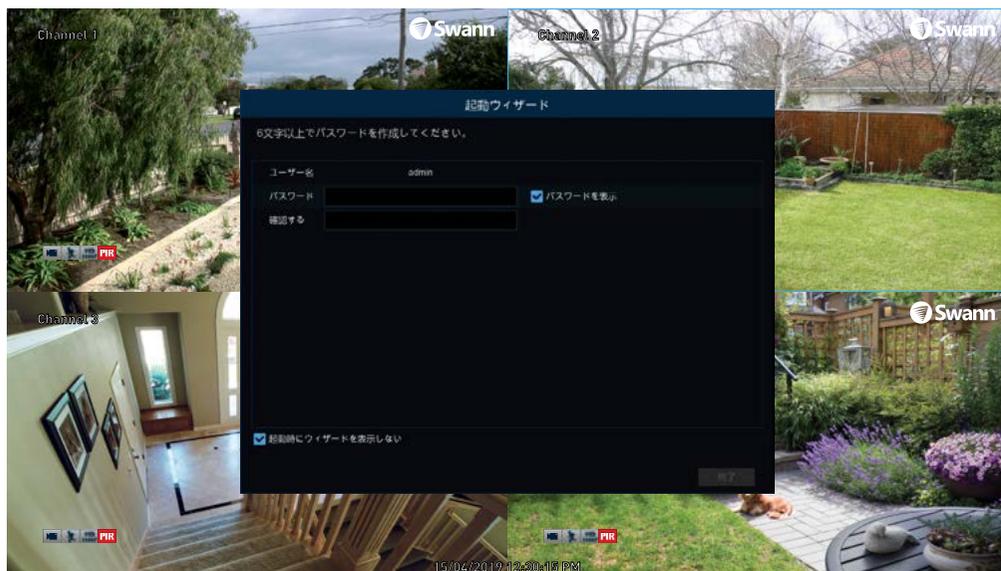
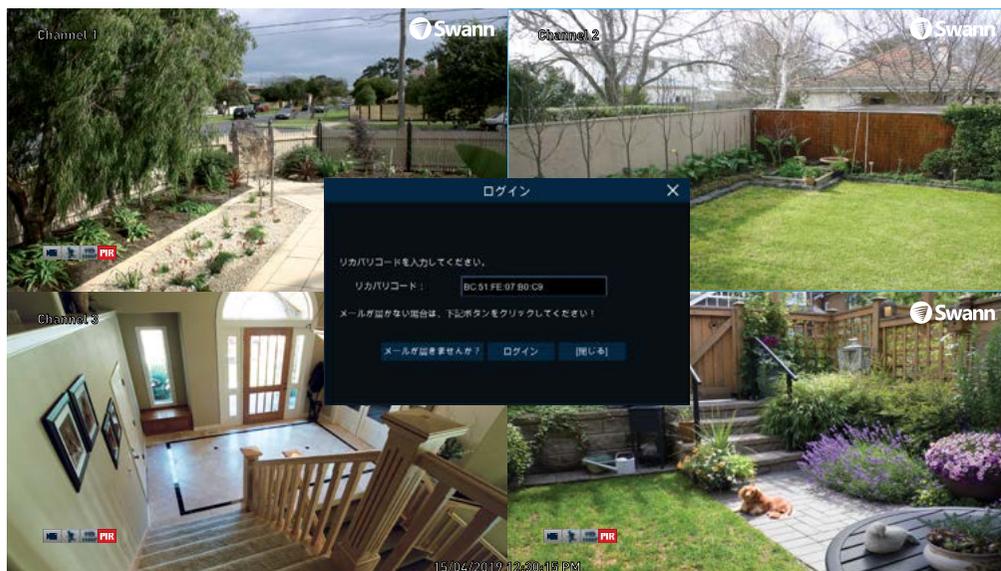
## 本取扱説明書について

本取扱説明書はDVR-4580シリーズ用に作成され、完成時において最新のものであります。しかし、日々製品の改善に継続的に取り組んでいるため、新たな特徴および機能が追加されている可能性があります。

## パスワードに関する重要な情報

本DVRにはデフォルトのパスワードがありません。起動ウィザードの実行中にパスワードが作成されます。パスワード保護が有効になっている時にパスワードを忘れた場合は、DVRのMACアドレスを使用して新しいパスワードを作成することが可能です(3ページ「[パスワードの復元](#)」を参照してください)。

# パスワードの復元



パスワードをお忘れですか? 次の手順に従って進んでください。

1. ライブ表示画面でマウスを右クリックしてメニューバーを表示し、[スタート]ボタン(メニューバーの左下)をクリックします。次に[セットアップ]をクリックします。
2. パスワードログイン画面で[パスワードをお忘れの場合]をクリックし、[はい]をクリックします。
3. しばらくすると、DVRのMACアドレスを含むパスワードリセットのリクエストメールが届きます(受信トレイにない場合は、迷惑メールフォルダまたはスパムフォルダを確認してください)。
4. セミコロンを含むMACアドレス(左の例を参照)を入力し、[ロック解除]をクリックします。
5. パスワードがリセットされたことを示すメッセージが画面上に表示されず。[OK]をクリックして続行します。
6. 新しいパスワードを入力します。パスワードは6文字以上で、数字と文字を組み合わせることができます。使い慣れた、しかし他人には簡単に分からないパスワードを使用してください。
7. 安全に保管するため、パスワードを下のスペースに記入してください。
8. 終了したら[完了]をクリックします。メッセージが画面上に表示されず。[OK]をクリックして終了します。

パスワードを忘れずに記入してください: \_\_\_\_\_

# 目次

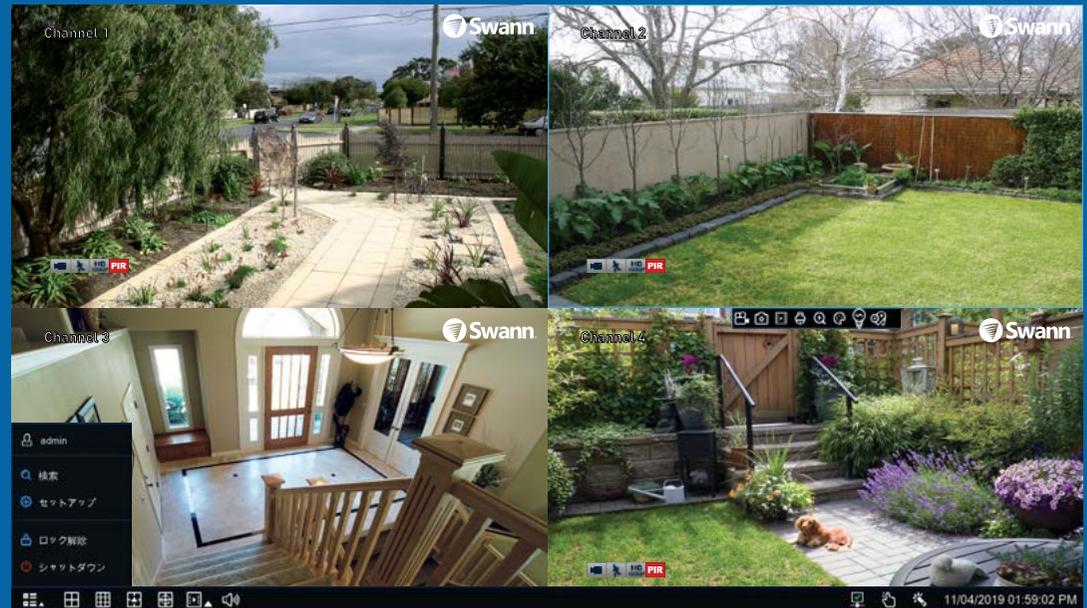
重要情報	2	スポットライトの作動スケジュール	26
パスワードの復元	3	デバイス:PTZ	27
<b>ライブ表示</b>	<b>6</b>	<b>録画の設定</b>	<b>29</b>
ライブ表示モード	7	録画:録画	30
ライブ表示アイコンおよび制御	8	アラーム:検知	31
<b>メインメニュー</b>	<b>9</b>	キャプチャ:キャプチャ	32
メニューレイアウト	10	キャプチャ:スケジュール	33
<b>カメラ設定</b>	<b>11</b>	<b>システム設定</b>	<b>34</b>
ディスプレイ:ライブ	12	ディスプレイ:ディスプレイ設定	35
ディスプレイ:プライベートゾーン	14	ネットワーク:ネットワーク	36
プライベートマスクの有効化	15	ネットワーク:メール設定	37
録画:メインストリーム	16	ネットワーク:メールスケジュール	38
録画:サブストリーム	18	ネットワーク:DDNS	39
アラーム:検知	19	ネットワーク:IPフィルター	40
アラーム:検知 - 動作	20	ネットワーク:日付および時刻	41
モーション検知のセットアップ	21	デバイス:HDD	42
モーション検知のヒント	22	デバイス:S.M.A.R.T	43
熱感知カメラのヒント	23	デバイス:クラウドストレージ	44
アラーム:抑止力	24	システム:基本性能	45
スポットライト検知のセットアップ	25	システム:ユーザー	46

# 目次

上級:維持 .....	47
上級:イベント .....	48
上級:自動アップグレード .....	49
<b>システムステータス .....</b>	<b>50</b>
システム:情報 .....	51
システム:チャンネル情報 .....	52
システム:録画情報 .....	53
システム:ネットワーク状態 .....	54
用語集 .....	55
保証に関する情報 .....	60
ヘルプとリソース .....	61

## ライブ表示

ライブ表示は、DVRのデフォルト表示モードです。接続済みの各カメラが画面上に表示されます。ライブ表示画面上のアイコンおよびメニューバーを使用して、DVRおよびカメラのステータスまたは動作を確認することができます。マウスを右クリックして、メニューバーにアクセスします。



# ライブ表示モード

ライブ表示モードは、DVRのデフォルト表示モードです。接続済みの各カメラが表示されます(複数の表示モードが利用可能)。ライブ表示画面上のステータスアイコンを使用して、DVRの動作を確認することができます。日付と時刻、各カメラの名前も表示されます。

ステータスアイコン

カメラツールバー

メインメニュー

メニューバー

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10



ライブビデオチャンネルをダブルクリックすると全画面表示になります。



ライブビデオチャンネルをクリックアンドドラッグして位置を変更します。

ライブ表示モードでマウスを右クリックすると、メニューバーが表示されます(詳細については、[8ページ](#)を参照してください)。

カメラを左クリックしてカメラツールバーにアクセスします。これにより、インスタント再生や画像設定の変更などの機能にアクセスできます。

# ライブ表示アイコンおよび制御

## メニューバー

1. これがスタートボタンです。クリックすると利用可能な追加機能が表示されます(下記参照)。
2. 4台のカメラ表示。
3. 9台のカメラ表示。
4. このボタンをクリックすると、使用可能なマルチスクリーン表示モードのいずれかが選択されます。
5. このボタンをクリックすると、各映像チャンネルが繰り返し全画面表示されます。
6. 大きい方のボタンをクリックすると[検索]メニューにアクセスできます。ここから、以前に録画した映像を再生できます。小さい方のボ

タンをクリックすると、最近のイベントを再生できます(最大終わりの5分間)。

7. 音量を変更する場合や音声をミュートする場合は、このボタンをクリックします(ミュートするにはスピーカーアイコンをクリックします)。
8. このアイコンは、DVRがモデムまたはWi-Fiに接続済みであることを示します。
9. このボタンをクリックすると録画モードに入ります。有効にすると、現在の録画スケジュールが無視されます。
10. このボタンをクリックすると起動ウィザードに入ります。



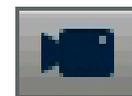
**検索:** ここをクリックして検索メニューにアクセスします。

**セットアップ:** ここをクリックしてメインメニューにアクセスします。

**ロック画面:** ここをクリックするとDVRがロックされ、メニュータイムアウト機能がオフになっているときはメインメニューやその他の機能へのアクセスを防ぐことができます。

**シャットダウン:** DVRをシャットダウン、再起動、またはログアウトするときにクリックします。録画データの完全性を確保するために、DVRの電源を切るときはパスワードを入力してから[シャットダウン]をクリックしてください。

## ステータスアイコン



このアイコンは、カメラが録画中であることを示します(手動またはモーション検知)。



このアイコンは、DVRがカメラからのモーションを検知していることを示します。



このアイコンは、メインストリームの録画解像度が1080pに設定されていることを示します。



このアイコンは、PIRカメラが1つまたは複数の熱をもった物体を検知したことを示します。



このアイコンは、DVRにストレージデバイスが接続されていないことを示しています。

## VIDEO LOSS

このアイコンは、チャンネルにカメラが接続されていないか、カメラからの映像信号が途切れたことを示します。

## メインメニュー

メインメニューで、DVRで利用可能なさまざまなアクションやオプションを制御できます。たとえば、プライバシーマスクの機能を有効にして、画像の全体または一部を隠したり、オプションでデフォルトのモーション検知エリアを変更したりすることができます。イベントが発生した時は、クラウドストレージを使用してスナップショットと映像をクラウドにコピーすることもできます。アップグレードが可能な場合、ファームウェアをアップグレードしてシステムを完全な状態に保てます。



# メニューレイアウト

利用可能なさまざまな機能とオプションは、メニューの左側に分類されています。

各カテゴリをクリックすると、デフォルトの設定から変更できるタブまたはサブカテゴリがいくつか表示されます。



前のメニューを終了またはアクセスするには、マウスを右クリックします。



変更を保存するか、デフォルト設定に戻します。



## カメラ設定

カメラ設定オプションは、メインメニューからアクセスできる[表示]、[録画]、[アラーム]、および[デバイス]メニューで利用できます。解像度、ビットレート、OSD(画面表示)の位置、および色相、輝度、コントラスト、彩度の画像設定の変更が可能です。DVRはモーション検知に関する制御が可能で、自宅または自宅周辺に潜む危険を知らせる特定範囲を決めることができます。また、プライバシー保護のために1つまたは複数のゾーンを作成し、カメラのセンサー警告ライトのスケジュールを設定することもできます。



# ディスプレイ:ライブ



利用可能な設定オプションを使用すると、輝度やコントラストなどの画像設定を調整する機能だけでなく、各カメラに設置場所に関連する名前を付けることもできます。また、隠しモードを有効にして、ライブ表示モードでカメラの画像を非表示にすることもできます。

- [コピー]機能を使って、接続済みの他のカメラにすべての設定を適用します。
- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

DVRの各カメラの入力はCH1、CH2などと表示されます。

**セットアップ:** このボタンをクリックしてカメラ表示設定にアクセスします。

**チャンネル:** 編集するカメラを選択します。

**チャンネル名:** 選択したカメラの名前を入力します。長さは最大16文字です。

**データフォーマット:** ドロップダウンメニューをクリックして希望の日付のフォーマットを選択します。

**タイムフォーマット:** ドロップダウンメニューをクリックして希望の時間のフォーマットを選択します。

**カメラの種類:** この設定は、接続済みのカメラの種類をDVRに知らせるために使用されます。DVRに付属しているカメラの場合は、デフォルト設定のままにします。ただし、以前に購入したカメラや古いセキュリティシステムからアッ

プグレードしたカメラを接続し、画像が白黒の場合は、カメラの種類に応じて設定をTVIまたはAHDに変更します。ドロップダウンメニューをクリックしてカメラの種類を選択します。

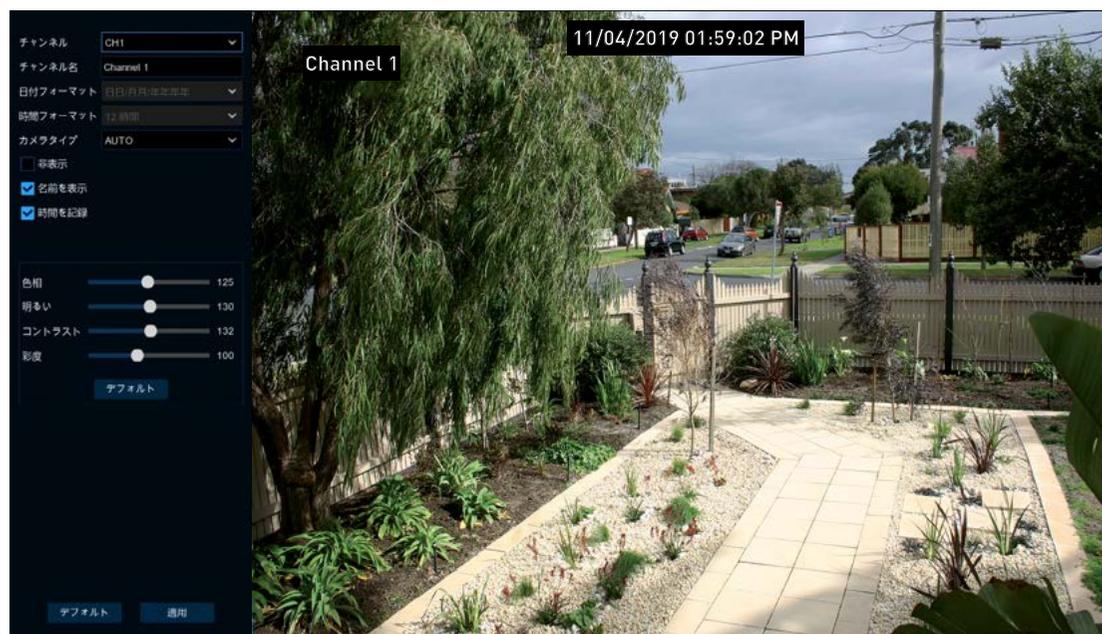
**隠し:** 有効にすると、カメラは動きを検知してDVRの録画を開始しますが、ライブ表示モードではカメラの画像は表示されません。DVRとテレビが公共の場(店、倉庫など)に設置されていても、カメラからの画像を見せたくない場合、この機能が適切かもしれません。

**名前の表示:** ライブ表示モードでカメラ名を表示するには、このまま有効にしておきます。表示しない場合はチェックボックスをクリックして無効にします。

**時間の表示:** すべての録画データにタイムスタンプを埋め込むには、このまま有効にしておきます。

(次のページに続く)

# ディスプレイ:ライブ



**色相:** これにより、画像の混色を変更します。

**明るさ:** これにより、画像の明るさが変わります。

**コントラスト:** これにより、画像内の最も黒い黒と最も白い白の差が大きくなります。

**彩度:** これにより、画像に表示される色が変わります。

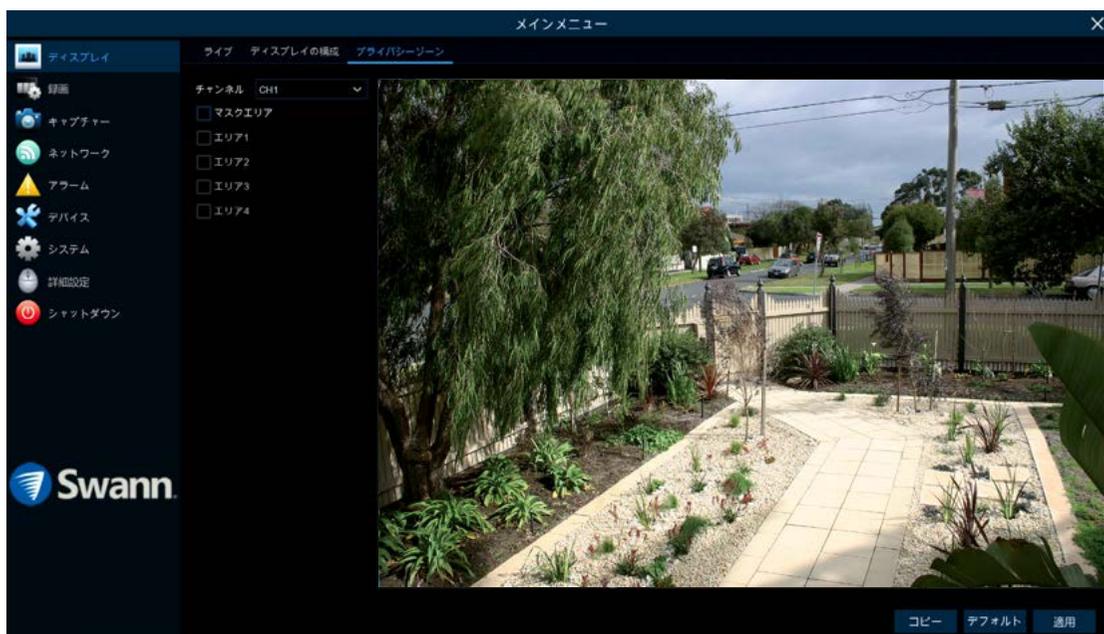
スライダーを使用して、それぞれの設定を調整します。終了したら[適用]ボタンをクリックし、[OK]をクリックします。マウスを右クリックして終了します。



表示設定に加えた変更内容は、録画データに反映されます。

TIP

# ディスプレイ: プライバシーゾーン



この機能は、プライバシーのために画像の全部または一部を隠すために使用されます。また、モーションが検出されたときに誤ったトリガを最小限に抑えることもできます。マスクによって隠された領域は、ライブまたは録画は表示されません。

- [コピー]機能を使って、接続済みの他のカメラにすべての設定を適用します。
- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

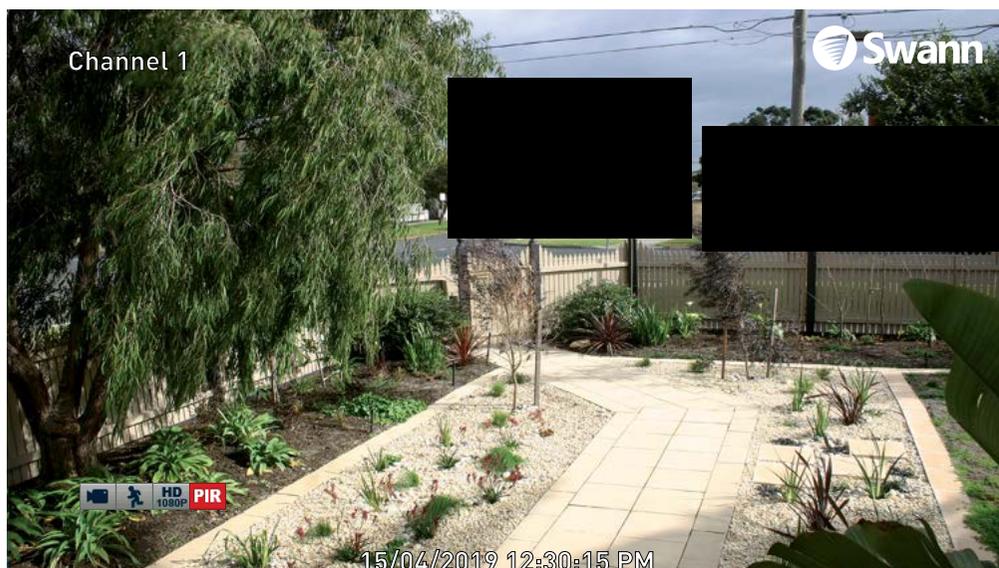
**チャンネル:** 編集するカメラを選択します。

**マスクエリア:** マスクを作成するには、チェックボックスをクリックして有効にします。

**1から4までのエリア:** 有効にするプライバシーマスクの数のチェックボックスをクリックします。カメラごとに最大4つのプライバシーマスクを有効にできます。

有効になっているプライバシーマスクの数に応じて、1つまたは複数のマスクがライブ表示ウィンドウに表示されます(15ページの「[プライバシーマスクの有効化](#)」を参照)。

# プライバシーマスクの有効化



**1.** 有効にするマスクの数に応じて、各マスクに番号が付けられます。マスクの位置を変更するには、マスク番号をクリックしたままマスクを希望の位置に移動します。

**2.** マスクのサイズを変更するには、マスクの右下の隅をクリックしたまま希望のサイズにサイズ変更します。各マスクの位置およびサイズを変更して、互いに重ね合わせることができます。

左の例では、2枚のマスクが使用され、住宅の前庭に隣接する車や歩行者が見えないようにしています。これにより、誤作動が最小限に抑えられるとともに正面玄関から入ってくる動作以外の動きには反応しなくなります。

**3.** 終了したら、[適用]をクリックして保存します。マスクで隠されたエリアは、ライブで表示されたり録画されたりすることはありません(左下参照)。

マスクを削除するには、該当するエリアの横にあるチェックボックスをオフにしてから、[適用]をクリックして保存します。

# 録画：メインストリーム



ここで利用できる機能によって、接続済みの各カメラの解像度、フレームレート、ビットレート制御、およびビットレートモードが変更できます。デフォルトでは、録画の解像度は備え付けられたカメラの機能に合うように自動的に選択されます。

- [コピー]機能を使って、接続済みの他のカメラにすべての設定を適用します。
- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

DVRの各カメラの入力はCH1、CH2などと表示されます。

**解像度:** デフォルトでは、録画の解像度は備え付けられたカメラの機能に合うように自動的に選択されます。古いアナログカメラが接続済みの場合は、カメラの録画機能に合わせて、NTSCの場合は[960 x 480]、PALの場合は[960 x 576]に解像度を下げます。

**FPS:** DVRが録画する1秒あたりのフレーム数(fps)。デフォルトは15fpsですが、必要に応じて変更することができます。Swann Securityアプリでは、ライブモードで[メイン]を選択してカメラを表示できます。モバイルデバイスへのストリーミングに問題が生じた場合は、フレームレートを低くします(たとえば、フレームレートを6fpsに下げると、画質が低下することなく必要な帯域幅が小さくなります)。

**ビットレート制御:** CBR(固定ビットレート)は一定のビットレートと帯域幅

を利用して映像を録画します。これは、画面上で起こっていることに関係なく、DVRが録画全体を通して同じビット数を使用することを意味します。VBR(可変ビットレート)は、DVRの録画中に変化するビットレートと帯域幅を利用します。シーンの複雑さに応じて、ビットレートは増減します。

**どちらの方法を選べばいい?** シーンの複雑さは録画の時間とともに大きく変化する可能性があり、録画に選択したビットレートは画質、帯域幅の消費、およびハードドライブのストレージに影響を与えます。街の通りのような動きのある複雑なシーンや対照的な色が多いシーンは、動きや動作の少ないあまり複雑でないシーンよりも画質や帯域幅の消費に影響を与えます。

(次のページに続く)

# 録画：メインストリーム



**CBR:** デフォルトでは、この制御方法を使用してDVRが映像を録画する設定となっています。カメラが交通量の多い場所に設置されている場合は、CBRをお勧めします。ビットレートは固定なので、画質は記録全体を通して一定になります。これは人や物を識別するときに役立ちます。

**VBR:** カメラが交通量の少ない場所に設置されている場合は、VBRをお勧めします。ビットレートは可変なので、動きがほとんどまたはまったく検知されない場合、DVRはより低いビットレートで使用できます。これにより記録サイズが小さくなり、帯域幅も少なくなります。

VBRを選択したときは、使用する可変ビットレートを定義する録画の画質を選ぶことができます。最小値から最大値まで選択できます。

**ビットレートモード:** 事前に定義済みのビットレートまたはユーザー定義のビットレートのいずれかを選択することができます。ほとんどの場合、デフォルト

の選択が適しています。

**ビットレート:** DVRが映像を録画するために使うデータの量。ビットレートが高くなると、各録画のハードドライブの消費容量が増えていきます。デフォルトのビットレートは4096Kbpsです。Swann Securityアプリを使用してモバイルデバイスへのストリーミングに問題が生じた場合は、ビットレートを変更します。これを減らすと、ストリーミング時に帯域幅の消費が少なくなります。

**音声:** 音声ソースがDVRの音声入力に接続済みの場合は、チェックボックスをクリックします(8チャンネルモデルの場合、このオプションはカメラ入力1にのみ表示されます)。



TIP

適切な録画設定の選択は、カメラの位置、照明条件、および必要な画質のレベルによって異なります。最適な設定を選ぶには、何度か試されることをおすすめします。

# 録画:サブストリーム



これにより、Swann セキュリティ アプリを使用して、モバイル デバイスにビデオをストリーミングする方法を制御できます。DVR からライブビデオをストリーミングする問題がある場合は、フレーム レート、ビットレート モード、ビットレート制御を変更できます。

- [コピー]機能を使って、接続済みの他のカメラにすべての設定を適用します。
- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

DVRの各カメラの入力はCH1、CH2などと表示されます。

**解像度:** デフォルトの解像度は352 x 288であり、変更できません。

**FPS:** Swann Securityアプリを使用してモバイルデバイスにストリーミングするときにDVRが処理する1秒あたりのフレーム数(fps)。ほとんどの場合、デフォルトのフレームレートが適しています。人通りが中程度から多い場所を監視するカメラの場合、これを10fpsまたは15fpsに変更します。これにより動きが滑らかになりますが、必要な帯域幅が増えることに注意してください。

**ビットレート制御:** これをVBRに変更します。これにより記録サイズが小さくなり、帯域幅も少なくなります。使用する可変ビットレートを定義する録画の画質を、最小値から最大値まで選ぶことができます。

**ビットレートモード:** 事前に定義済みのビットレートまたはユーザー定義のビットレートのいずれかを選択することができます。ほとんどの場合、デフォルト

の選択が適しています。

**ビットレート:** DVRがモバイルデバイスに映像をストリーミングするために使用するデータ量。人通りが中程度から多い場所を監視するカメラの場合、カメラの画像により詳細な情報が加わるようにビットレートを上げますが、これにより必要な帯域幅が増えることに注意してください。画質に納得がいくまで、少しだけビットレートを上げます。

**音声:** 音声ソースがDVRの音声入力に接続済みの場合は、チェックボックスをクリックします(8チャンネルモデルの場合、このオプションはカメラ入力1のみ表示されます)。



TIP

ライブ映像をストリーミングする場合、画質はインターネット接続と利用するサブストリーム設定に左右されます。複数のカメラを同時にストリーミングする場合に、このことを念頭に置くことが重要です。

# アラーム:検知



台または複数のカメラでモーションが検知されると、DVRは自宅に潜んでいる危険を知らせます。これは、参照としてカメラの画像を添付した警告メールの送信、およびSwann Securityアプリでのプッシュ通知の送信、またはそのいずれかで行われます。

- [コピー]機能を使って、接続済みの他のカメラにすべての設定を適用します。
- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

DVRの各カメラの入力はCH1、CH2などと表示されます。

**セットアップ:** ボタンをクリックして、デフォルトのモーション検知エリアを変更します。カメラの表示全体がモーション検知に対して有効になっていますが、希望により特定のエリアを選択することができます。(21ページの「[モーション検知のセットアップ](#)」を参照してください)。

**モード:** デフォルトでは、DVRは、カメラおよびカメラの内蔵PIRセンサーによって1つまたは複数の物体が検出された場合にのみ、モーションを録画します。風、落ち葉、雨による誤作動を取り除くことで、より正確なモーション検知が可能になります。(23ページの「[熱感知カメラのヒント](#)」を参照してください)。人通りの多い通路や建物の入り口など、カメラの内蔵PIRセンサーで物体を検出する必要がないエリアを監視している場合は、[モーション]に変更します。

**感度:** このオプションで感度レベルを変更できます。数値が大きいほど、モー

ションを検知するときのDVRの感度が高くなります。ほとんどの場合、デフォルトの設定が適していますが、感度レベルがカメラの場所に対して適切かどうかを確認するためにテストの実施をお勧めします。(22ページの「[モーション検知のヒント](#)」を参照してください)。

**動作:** ボタンをクリックして、アラーム通知、警告などのオプションを変更します(20ページの「[アラーム:検知-動作](#)」を参照してください)。

(次のページに続く)

# アラーム:検知 - 動作



**ブザー:** モーションが検知されたらDVRのブザーを有効にして、あらかじめ定めておいた時間だけ警告音を発するように設定しておくことができます。

**録画(録画チャンネルおよびアナログチャンネル):** このオプションによって、モーションが検知されたとき、DVRに追加のカメラを起動して録画を開始するように指示が出されます。[アナログチャンネル]のチェックボックスをクリックしてすべてのカメラを選択するか、録画を開始したいカメラ番号を一つ一つクリックします。

**録画データの投稿:** このオプションによって、イベントが発生した後にDVRに一定期間録画するように指示が出されます。

**メッセージの表示:** モーションが検知されると、モーションアイコンが画面上に表示されます。無効にする場合はチェックボックスをクリックします。

**メールの送信:** このチェックボックスをクリックすると、モーションが検知され

たときにDVRが警告メールを送信できるようになります。

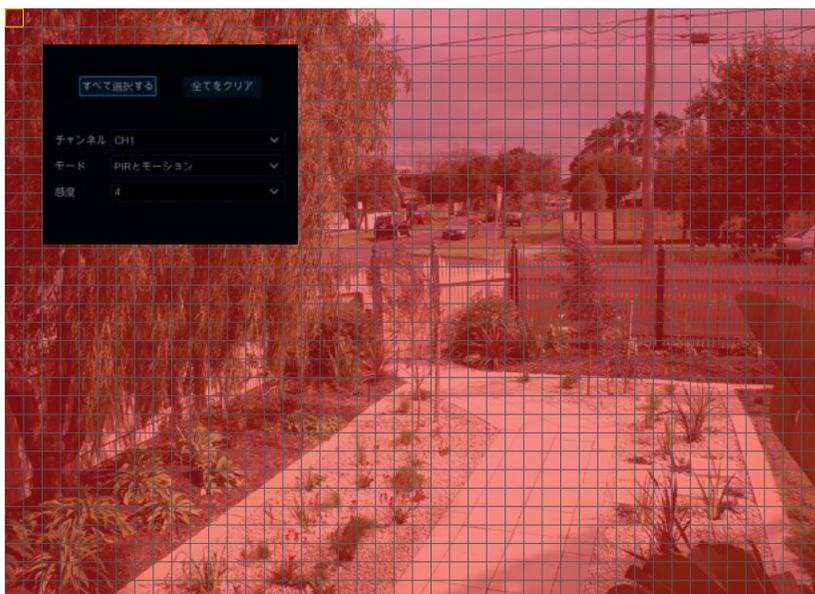
**プッシュ通知:** プッシュ通知は、Swann Securityアプリによって自動的に送信されます。無効にする場合はチェックボックスをクリックします。

**画像をクラウドへ:** チェックボックスをクリックすると、Dropboxを通してスナップショットがクラウドにコピーされます(44ページの「デバイス:クラウドストレージ」を参照してください)。

**映像をクラウドへ:** チェックボックスをクリックすると、Dropboxを通して映像がクラウドにコピーされます(44ページの「デバイス:クラウドストレージ」を参照してください)。

**全画面表示(右にスライドすると表示されます):** チェックボックスをクリックすると、モーションが検知されたときにライブ表示モードでカメラが全画面で表示されます。

# モーション検知のセットアップ



1. [すべてクリア]をクリックすると、デフォルトのモーション検知エリアが削除されます。
2. 新規のモーション検知エリアを作成するには、マウスの左ボタンを押したまま開始するセルまたは正方形を選択し、クリックアンドドラッグで作成するエリアを選択します。マウスを放して終了します。

3. 複数のエリアの作成が可能です。個々のセルまたは正方形を有効にして、モーションを検知することもできます。作成されたエリアを削除する場合も同様です。

この例では、前庭にモーション検知エリアが作成されていますが、木などの物体や住宅の前庭に隣接する車や歩行者などは除外されています。正面玄関から通路を歩いて正面玄関に近づく人がいれば必ず検知されます。

モーション検知エリア外での動きは検知されないため、録画が開始されたりイベント通知がされたりすることはありません。

4. 必要に応じて感度を調整してから、マウスを右クリックして終了します。

5. [適用]をクリックすると、変更が保存されます。



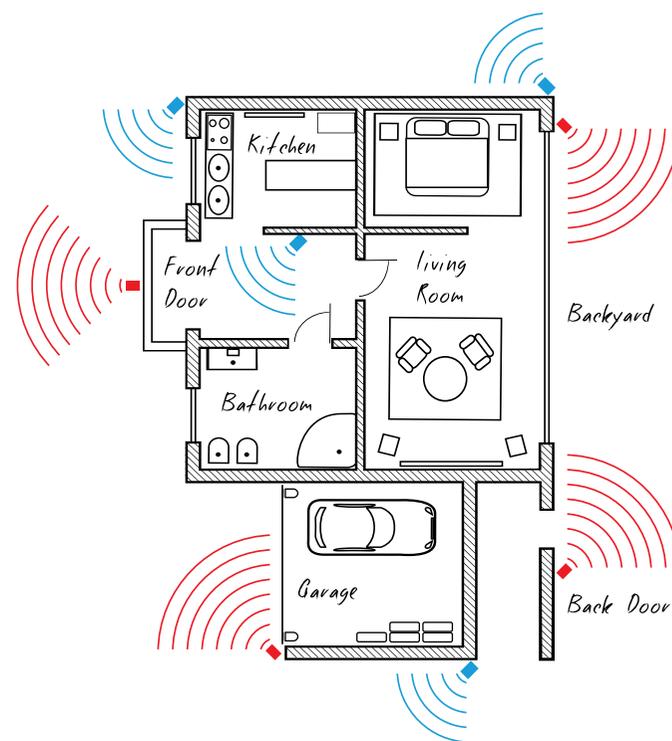
# モーション検知のヒント

## カメラの取り付け

1. 進行方向に関係なく、自宅に近づくには必ず通らなければならないエリアの方を向くようにカメラを取り付けます。正面玄関を監視するカメラを取り付け、後で確認できるように玄関に近づく人の画像をキャプチャすることをお勧めします。これは、荷物が玄関に届いたのか、泥棒かもしれない人が、家に誰がいるかどうかを確認するためにノックまたはドアベルを鳴らしたのかを判断するのに最適な方法です。
2. 自宅周辺を歩いてみて、侵入者が侵入する可能性が最も高い場所やどの通路を通っていくのかを見極めてください。ほとんどの窃盗犯は正面玄関や裏口を通して自宅に侵入してきます。そのため、自宅に近づいてくる人の詳しい情報をできるだけ把握できるように、カメラをこのような場所の近くに取り付けることをお勧めします。
3. カメラを屋外に取り付ける場合は、暗視とモーション検知に理想的な環境として、自宅の正面と裏庭をできるだけ明るく保つことが重要です。一般的に、侵入者は鍵のかかっていないガレージから、または私道に駐車している鍵のかかっていない車の中に置いてあるガレージドアの開閉装置を使って家の中に侵入します。私道やそのような場所の車を監視できるようにカメラを取り付けると、非常に役に立ちます。

## 誤作動の回避

1. 風に吹かれている木、低木、または木の葉 - 風で吹かれている物体がカメラの視野から外れるようにカメラを傾げるか、カメラのモーション検知エリア設定を使用してこれらのエリアを検出対象外に設定してください。
2. カメラは自宅の近くの歩道や通りを進んでいる人の方向を向いています。モーション検知エリア設定を使用して本当に危険性のあるものだけがイベントを引き起こすように設定してください。
3. 後ろの方で走っている車 - 後ろの方に動きがないような方向にカメラを傾げるか、モーション検知エリア設定を使用して路上での車の検知を停止する設定にしてください。
4. ガラスのような滑らかな表面からの動きや光の反射 - 感度レベルを調整して、カメラをガラスの表面に直接向けないようにする、またそれらのいずれかを行ってみてください。



まず、赤色で示されているカメラ(上図を参照)の場所に取り付けをお勧めします。正面玄関、裏口、ガレージ入口の近くや裏庭を見渡せる場所にカメラを取り付けてください。

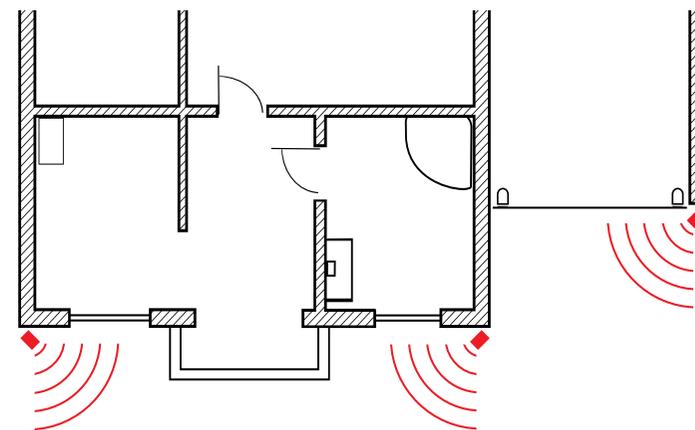
次に、青色で示されているカメラの場所に取り付けをお勧めします。DVRに追加のカメラが付属している場合や裏庭玄関が複数ある場合には、自宅の正面玄関の中、家の正面(前庭や車道を監視することができます)、側門に取り付けてください。

# 熱感知カメラのヒント

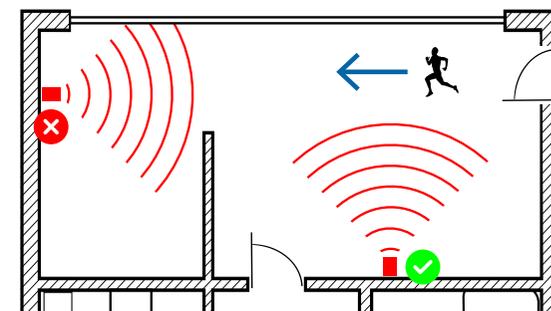
DVRに熱感知カメラが付属している場合や個別に購入した場合は、次のヒントを使用して、最高のセキュリティシステムを構築することができます。

カメラにはPIR(受動赤外線モーション検知)センサーが内蔵されています。つまり、人、車、動物などの熱をもつ物体の動きを検知することができます。PIRセンサーを搭載していないカメラよりも優れている点は、画像の変化による誤作動に対して非常に強いということです。

- PIRセンサーは、侵入者が直接向かって歩いてくるのとは逆に、平行に歩いているとき、または「視野」を横切っているときに最もよく機能します。たとえば、玄関や家の周りの通路では、人は壁に直接向かっては歩かず、どちらかといえば壁と平行に歩きます。自宅に近づいてくる人がカメラの視野を横切ってイベントを引き起こすようにカメラを取り付けてください。
- 録画を行うには、PIRが熱をもった物体が前を通っていることを感知する必要があり、さらに、カメラの画像センサーが画像の動きを検知する必要があります。これらのいずれかが起こっていない場合、映像は録画されません。
- PIRが起動すると、PIRアイコン(赤い四角形)が画面上に点滅します。PIRおよびモーションが起動すると、イベントが発生したと録画が行われていることを示す「ランニングマン」アイコンが画面上に表示されます。
- PIRはカメラの視野の範囲外にある物体を検知することができるので、センサーを起動させるすべての物体がカメラに表示されるわけではありません。
- PIRは、最大30フィート/9メートルまでの動きを確実に検知できますが、この範囲を超えると検知される場合と検知されない場合があります。
- 木々や影などの画像に動きがある場合も、通路や道路などの急激な温度変化によってちょっとした誤警告が起こることがありますので注意してください。
- 誤作動が起こっている場合は、モーションエリア設定で動いている物体を検知対象から削除することにより、警告がより正確なものになっていきます(21ページの「モーション検知のセットアップ」を参照してください)。



外のカメラの場合は、侵入者が入る可能性が最も高い場所(フロント&バックドア、ガレージ入り口)に取り付けます。侵入者がセンサーに平行に歩くようにカメラを角度付けします。



PIRセンサーは、侵入者が平行に歩いたり、直接歩く代わりに「視野」を通過したりする場合に最適です。

# アラーム:抑止力



DVRの各カメラの入力はCH1、CH2などと表示されます。

**セットアップ:** ボタンをクリックして、デフォルトのスポットライト検知エリアを変更します。カメラの表示全体が有効になっていますが、希望により特定のエリアを選択することができます(25ページの「[スポットライト検知のセットアップ](#)」を参照してください)。

**スケジュール:** ボタンをクリックすると、デフォルトのスポットライトスケジュールが変更されます(26ページの「[スポットライトの起動スケジュール](#)」を参照してください)。

**感度:** このオプションを使用すると、DVRがモーションを検知したときにスポットライトの感度を変更することができます。これはモーションを検知するカメラの感度とは別のものとなっています。例として、後ろの方の動きを録画したいけれど、1つまたは複数の物体がカメラに近づいてから、スポットライト

およびサイレン、またはそのいずれかを作動させたいとします。この場合、感度は1または2に調整します。最適な設定を選ぶには、何度か試されることをおすすめします。

**ライトの有効化:** チェックボックスをクリックして、カメラのスポットライトを有効にします。

**ライトの点灯時間:** モーションが検知されたときのスポットライトの点灯時間の長さを変更することができます。状況に応じて調整してください。

DVRに付属しているカメラには内蔵サイレンがないので、サイレン有効化およびサイレン点灯時間の機能は無効になっています。

# スポットライト検知のセットアップ



1. [すべてクリア]をクリックすると、デフォルトのスポットライト検知エリアが削除されます。
2. 新規のスポットライト検知エリアを作成するには、マウスの左ボタンを押したまま開始するセルまたは正方形を選択し、クリックアンドドラッグで作成するエリアを選択します。マウスを放して終了します。

3. 複数のエリアの作成が可能です。個々の正方形を有効にすると、スポットライトを作動させることもできます。作成されたエリアを削除する場合も同様です。

この例では、裏庭のスポットライト検知エリアが作成され、1つまたは複数の物体が家の裏側に近づくとスポットライトが作動します。

スポットライトはスポットライト検知エリアの外側の動きには反応しません。

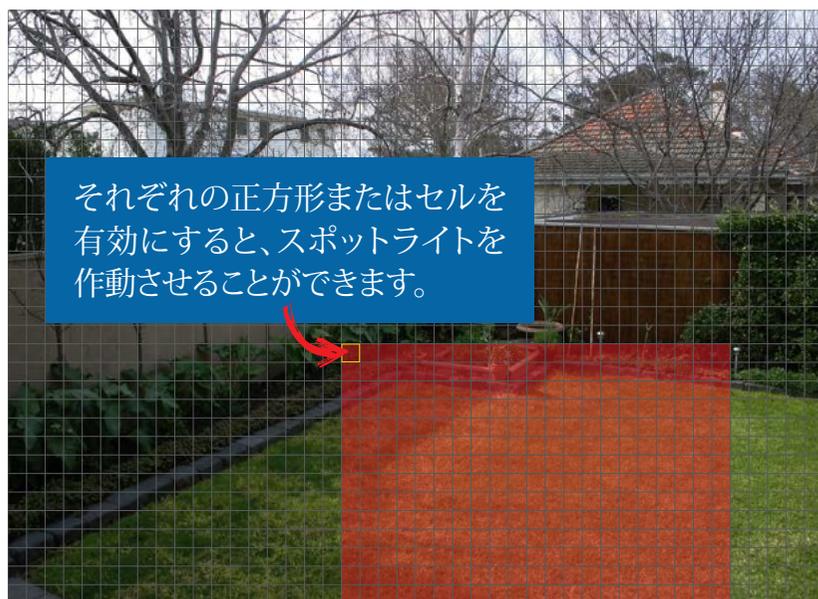
**ライトの有効化:** チェックボックスをクリックして、カメラのスポットライトを有効にします。

**ライトの点灯時間:** モーションが検知されたときのスポットライトの点灯時間の長さを調整してください。

**感度:** 必要に応じて感度を調整してください。

4. マウスを右クリックして終了します。

5. [適用]をクリックすると、変更が保存されます。



# スポットライトの作動スケジュール



デフォルトでは、スポットライトおよびサイレンは午前6時30分から午後4時30分まで作動しませんが、必要に応じて変更できます。

各正方形は30分を表しています。マウスで特定の正方形をクリックして変更するか、マウスをクリックして希望の時間に対応する正方形の上までドラッグします。

[保存]をクリックすると、変更が保存されます。マウスを右クリックして終了します。

# デバイス:PTZ

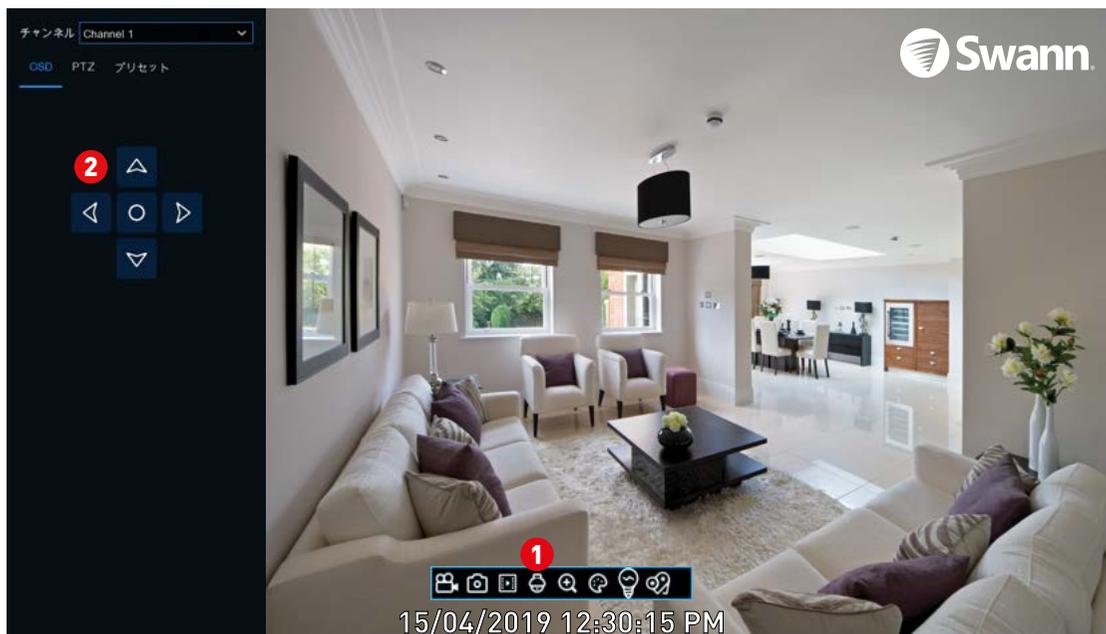


- [コピー]機能を使って、接続済みの他のカメラにすべての設定を適用します。
- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

互換性のあるPTZカメラがDVRに接続済みの場合は、PTZ制御を使用してカメラを動かしたり、物体にズームインしてフォーカスのレベルを制御したりすることができます(対応している場合)。カメラの視野を別の位置に合わせるための複数のプリセットポジションを作成することができます。クルーズモードを使用して、作成した別のプリセットポジションにカメラを向けることもできます。

PTZカメラを設定するには、デバイスに付属している取扱説明書を参照して設定を合わせてください。

# カメラの画面上での表示



画面上のディスプレイにアクセスすると、メインメニューが最初に表示されます。ここから、利用可能な設定にアクセスできます。

1. 画面上ディスプレイにアクセスするには、ライブ表示モードでカメラをクリックし、[カメラツールバー]のPTZボタンをクリックします。

2. カメラが全画面で表示され、ナビゲーションコントロールが左側に表示されます。中央ボタン(円)をクリックすると、メインメニューが表示されます。上矢印ボタンと下矢印ボタンをクリックして移動します。左矢印ボタンと右矢印ボタンをクリックして、設定を変更します。中央ボタンをクリックしてサブメニューに入り、変更を確認します。

マウスを右クリックして終了します。

## 録画の設定

録画設定オプションは、メインメニューからアクセスできる[録画]および[キャプチャ]メニューで利用できます。ここから、接続済みのカメラごとにデフォルトの録画スケジュール(週24時間7日のグリッドで表示されて色分けされたもの)にアクセスして変更することができます。DVRのスケジュールを有効にして、イベントが発生するたびにスナップショットを撮るように設定することもできます。



# 録画：録画



- [コピー]機能を使って、接続済みの他のカメラにすべての設定を適用します。
- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

DVRの各カメラの入力はCH1、CH2などと表示されます。

**録画の有効化:** 無効にすると、DVRはモーションを検知しますが、録画はされません(手動での録画も無効になります)。

**ストリームモード:** デフォルトでは、DVRはメインストリーム映像とサブストリーム映像の両方を録画します(デュアルストリーム機能)。メインストリームは、DVRを直接使用しているときに再生するために使用され、サブストリームはモバイルデバイスのリモート再生に使用されます。リモート再生が必要ない場合は、[メインストリーム録画のみ]を選択できます。

**プレ録画:** イベントが発生する前に、数秒間DVRによる録画が可能です。この機能は有効にしておくことをお勧めします。

# アラーム:検知



既定では、接続されている各カメラに対して、週 24 時間 7 日の検出スケジュールが有効になっています。スケジュールを変更することができ、必要に応じて各カメラのスケジュールを異なることができます。スケジュールは、イベントの種類を表す色分けされています。

- [コピー]機能を使って、接続済みの他のカメラにすべての設定を適用します。
- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

**チャンネル:** 編集するカメラを選択します。

**通常:** DVRは一定期間継続的に録画します。

**検知:** DVRは、1つまたは複数のカメラからモーションが検知されたときのみ録画します。

各正方形は30分を表しています。マウスで希望の録画モードを選択してから特定の正方形をクリックして変更するか、マウスをクリックして希望の時間に対応する正方形の上までドラッグします。(録画が有効な1つまたは複数のセクションで)通常録画または検出録画が必要ない場合、同じアクションを適用することもできます。

# キャプチャ:キャプチャ



追加機能として、DVRのスケジュールを有効にして、イベントが発生するたびにスナップショットを撮るように設定することができます。この機能は、特にモーションイベントを素早く検索する場合に便利であり、タイムラプス撮影などの別の目的での使用も可能です。

- [コピー]機能を使って、接続済みの他のカメラにすべての設定を適用します。
- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

DVRの各カメラの入力はCH1、CH2などと表示されます。

**オートキャプチャ:** 有効になっている場合、イベントが発生するたびにDVRがスナップショットを撮影します。

**ストリームモード:** デフォルトの選択のままにしておきます。これにより、カメラのネイティブ解像度(アラーム解像度)を選択することができます。

**標準間隔:** スナップショットが撮影されるまでの経過時間。たとえば、通常のキャプチャスケジュールを設定する場合、デフォルト選択で5秒ごとにスナップショットが撮影されます。状況に応じて調整してください。

**アラーム間隔:** 検知キャプチャスケジュールを設定しているときは、モーションが検知されるたびに選択した間隔に応じてスナップショットが撮影されます。状況に応じて調整してください。

**アラーム解像度:** デフォルトの選択のままにしておきます。これにより、各スナップショットはカメラのネイティブ解像度で保存されます。より低い解像度を選択できます。

**アラーム画質:** デフォルトの選択のままにしておきます。これにより、各スナップショットはカメラの最大のビットレートで保存されます。

追加機能のため、キャプチャスケジュールはデフォルトでは有効になっていません。この機能を有効化するには(33ページの「[キャプチャ:スケジュール](#)」を参照してください)。

# キャプチャ:スケジュール



**チャンネル:** 編集するカメラを選択します。

各正方形は30分を表しています。マウスで希望のキャプチャを選択してから特定の正方形をクリックして変更するか、マウスをクリックして希望の時間に対応する正方形の上までドラッグします。(有効な1つまたは複数のセクションで)通常キャプチャモードまたは検出キャプチャモードが必要ない場合、同じアクションを適用することもできます。

## システム設定

オプションを使用すると、DVRの設定方法や稼働手段を完全に制御できます。起動ウィザードの実行中に、ディスプレイ解像度、タイムゾーン、メール設定、サマータイム、およびパスワード作成などのオプションが設定されます。経験豊富なネットワークユーザーのために、DVRには固有の要求に合わせて構成が可能なオプションを備えています。アップグレードが可能な場合、実行してファームウェアをアップグレードすることもできます。



# ディスプレイ:ディスプレイ設定



- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

**シーケンスモード:** DVRがシーケンスモードになっているときに表示する映像チャンネルの数を選択します。同時に表示させるカメラを1台、4台、6台の中から選択することができます。

**シーケンスドウェルタイム:** 次の映像チャンネル(最大300秒)を表示する前に、映像チャンネルをシーケンスモードで表示する時間の最大長を秒単位で入力します。

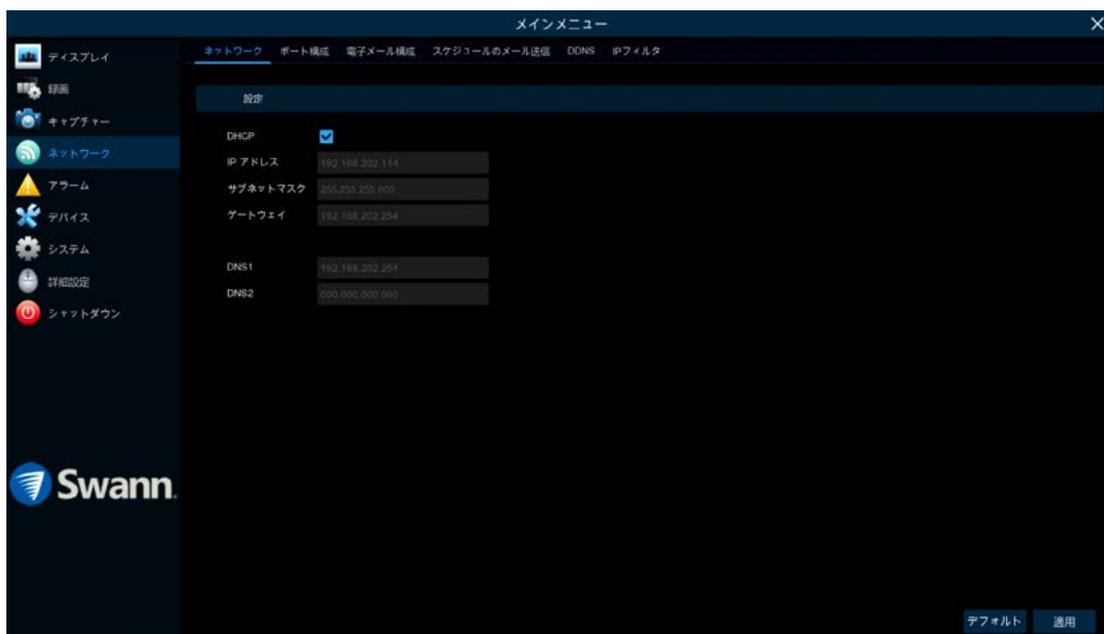
**VGA/HDMI解像度:** テレビ表示に適した解像度を選択します。

**透過性:** スライダーを左または右にクリックしたままにすると、メニューバーとメインメニューの画面上で表示される透過性が変更されます。状況に応じて調整してください。

**オーバースキャンの有効化:** 主に旧型のテレビ受像機で使用され、表示可能エリア全体を画面上で正確に表示する機能です。画像の端をカットすること

により行われます。この機能は、正しいアスペクト比が表示されるように画像がデジタル処理されるものなので、最新のプラズマテレビや液晶テレビには必要ありません。

# ネットワーク:ネットワーク



ネットワークおよびモバイルデバイスとの通信にSwannLinkのP2P技術が利用されているため、ネットワーク設定の構成は必要ありません。ネットワークの専門知識があり、個別の設定が必要な場合は、変更が可能です。

- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されません。

**DHCP(動的ホスト構成プロトコル):** ルーターはネットワークに接続済みの各デバイスに自動的にIPアドレスを割り当てます。デフォルトにより有効化されています。

DHCPを無効にしている場合は、次の5つのオプションを変更できます。

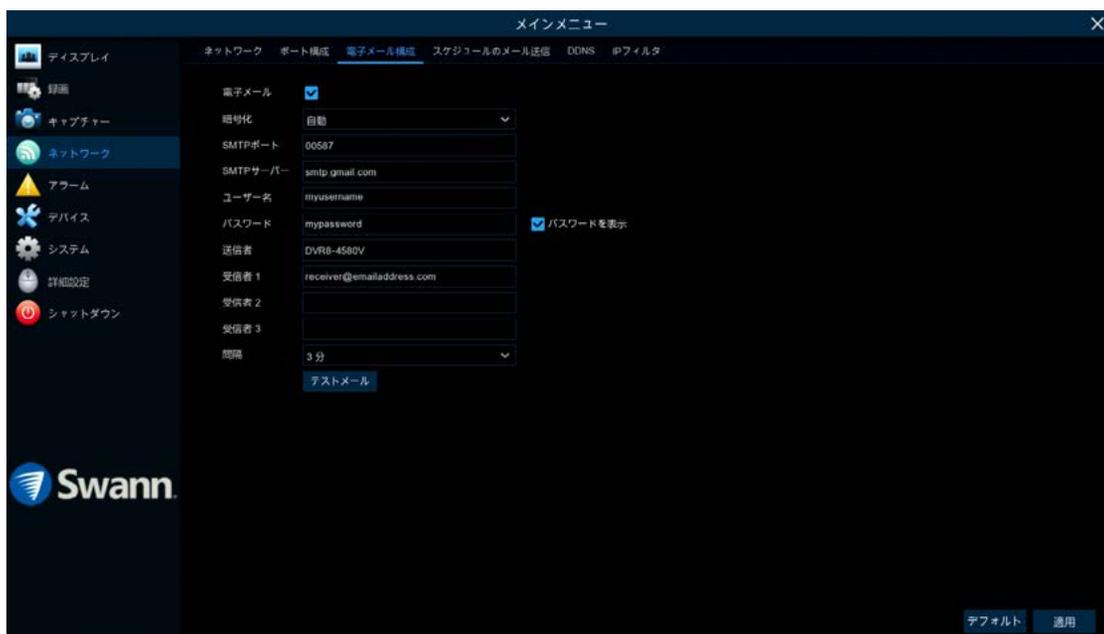
**IPアドレス:** ネットワーク上の各デバイスには、独自のIPアドレスが必要です。代表的なアドレスは「192.168.1.24」または同様のものになります。

**サブネットマスク:** これにより、ネットワーク構成に基づいてホスト間のネットワークトラフィックの流れを分離することができます。代表的なアドレスは「255.255.255.0」または同様のものになります。

**ゲートウェイ:** これによりDVRがインターネットに接続できるようになります。これは通常、モデムまたはルーターと同じIPアドレスとなります。

**DNS(ドメインネームシステム)1/2:** インターネットサービスプロバイダのDNS設定を入力します。

# ネットワーク:メール設定



DVR用のメールを作成する必要があるのはなぜですか?だから、あなたのDVRはあなたに電子メールアラートを送信し、忘れた場合はパスワードリセット要求を送信することができます。Gmail gmail.comと Outlook outlook.comの両方がサポートされています。

→ [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。

→ [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

**メールアドレス:** チェックボックスをクリックして、メールアドレスの詳細を入力します。

**暗号化:** これは「自動」のままにしておきます。

**SMTPポート:** Gメール入力00587。アウトルック入力00587。

**SMTPサーバー:** Gメール入力「smtp.gmail.com」。アウトルック入力「smtp.live.com」。

**ユーザー名:** 作成したアカウントのメールアドレスのユーザー名を入力します。

**パスワード:** 作成したパスワードのメールアドレスのユーザー名を入力します。パスワードを非表示にする場合は、[パスワードの表示]のチェックボックスをクリックします。

**送信先:** メールアカウントの名前(たとえばDVR8-4580V)を入力します。

**受信先1:** 警告メールの送信を希望するメールアドレスを入力します。

**間隔:** これは、DVRによる警告メールの送信後、別の送信先に送信するまでの経過時間のことです。状況に応じて調整してください。

**テストメール:** クリックして情報が正しいことを確認し、[OK]をクリックします。テストが正常に終了した場合は、メッセージが表示されます。[OK]をクリックして続行します。

テスト用メールが受信トレイにない場合は、迷惑メールフォルダまたはスパムフォルダを確認してください。

# ネットワーク:メールスケジュール



- [コピー]機能を使って、接続済みの他のカメラにすべての設定を適用します。
- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

**チャンネル:** 編集するカメラを選択します。

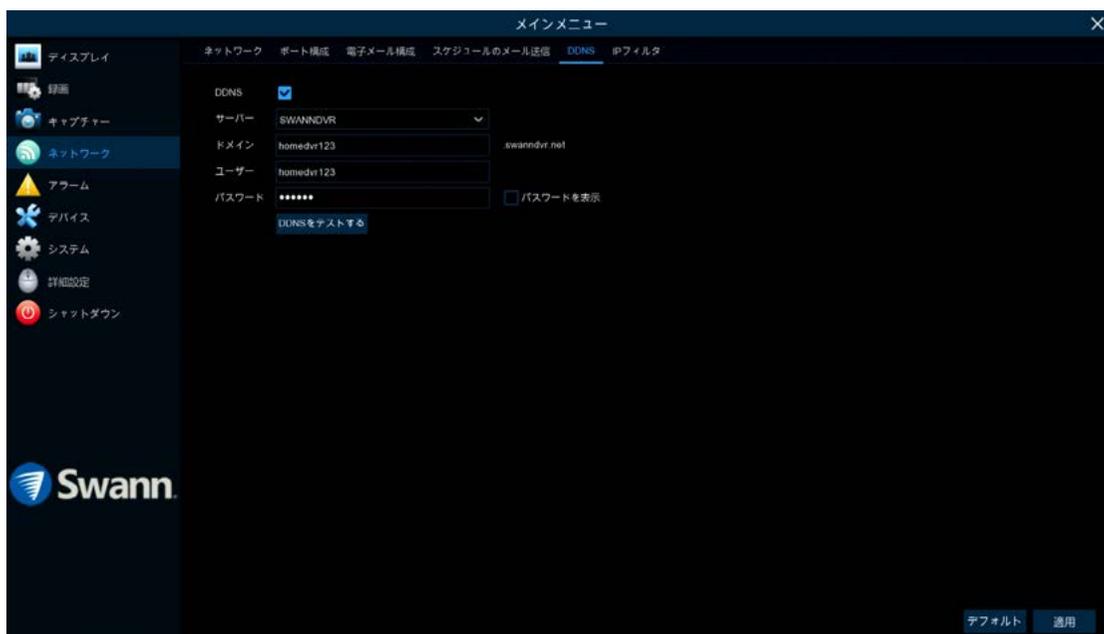
**検知:** 警告メールがモーション検知に対して有効になっている場合、DVRによって送信されるスケジュールを変更することができます。たとえば、警告メールは日中だけ受信して、夜間には受信しないという設定も可能です。カメラごとに別のスケジュールを作成することができます。

**例外:** DVRが例外として検知するイベントが3種類あります。ハードドライブ上に容量が残っていない、ハードドライブエラー、1つまたは複数のチャンネルでカメラからの映像信号が途切れた場合(48ページの「上級: イベント」を参照してください)。警告メールの受信に例外がある場合は、デフォルトのスケジュールのままにしておくことをお勧めします。

各正方形は30分を表しています。マウスで特定の正方形をクリックして変更するか、マウスをクリックして希望の時間に対応する正方形の上までドラッグ

します。

# ネットワーク:DDNS



SwannLinkのP2P技術が開発される前は、DVRのリモート接続にSwannDNSサービスが使用されていました。このサービスはまだ有効であり、バックアップの手段としてアカウントを作成することをお勧めします。

- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

[www.swanndvr.com](http://www.swanndvr.com)にアクセスして、[登録]ボタンをクリックします。指示に従ってアカウントを作成します。

**DDNS:** チェックボックスをクリックして有効にします。

**サーバー:** SWANNDVRが自動的に選択されます。

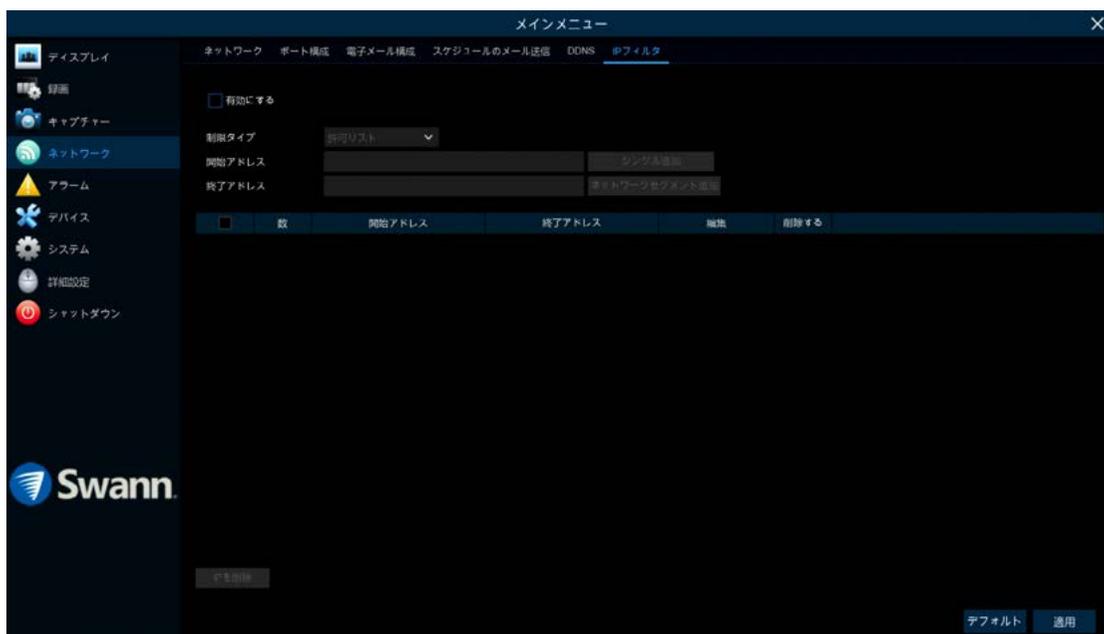
**ドメイン:** アカウントでホストされているドメイン名を入力します。たとえば、username.swanndvr.net

**ユーザー:** アカウント用のユーザー名(ホスト名)を入力します。

**パスワード:** アカウント用のパスワードを入力します。

**テストDDNS:** このボタンをクリックしてから[OK]をクリックし、アカウントの詳細を確認します。すぐに「DDNSテストが正常に完了しました!」というメッセージが表示されます。[OK]をクリックして終了します。

# ネットワーク:IPフィルター



→ [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。

→ [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

IPフィルタリングは、IPアドレスの特定のグループに対するネットワークデバイスへのアクセスを制限するための優れた方法です。たとえば、悪意のあるユーザーがネットワークを攻撃した場合、1つのIPアドレスまたはIPアドレスのブロックからデバイスへのアクセスを防ぐためのフィルターを追加することができます。DVRの日常的な機能においては、この機能は必要ありません。

# ネットワーク:日付および時刻



→ [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。

→ [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

## 日付および時刻

日付、時刻、タイムゾーンが正しくない場合は、該当するダイアログボックスをクリックし、メニューをドロップダウンして変更します。

## NTPの設定

NTP(ネットワークタイムプロトコル)機能を使用すれば、DVRは自動的にクロックをタイムサーバーと同期させることができます。これにより、日付と時刻が常に正確になります(DVRは周期的に自動同期されます)。

1. [今すぐ更新する]ボタンをクリックすると、すぐにDVRの内部クロックをタイムサーバーと自動同期させることができます。
2. 時刻が正常に更新されたことを示すメッセージが画面上に表示されます。[OK]をクリックして続行します。

## DSTの設定

**DSTの有効化:** サマータイムがタイムゾーンまたは地域に適用されている場合は、ドロップダウンメニューをクリックして有効にします。

**タイムオフセット:** タイムゾーン内でサマータイムが増加した時間を選択します。これは、UTC(協定世界時)と現地時間との分の違いを意味します。

**DSTモード:** サマータイムが開始および終了する方法を選択するには、次の手順を実行します。

**週:** 月とサマータイムが開始および終了する日と時刻を選択します。たとえば、特定の月の第1日曜日の午前2時などです。

**日付:** サマータイムの開始日(カレンダーアイコンをクリック)および終了日、時刻を選択します。

# デバイス:HDD



この機能により、DVRのハードドライブをフォーマットが可能になり、このリストに表示されて選択できるようになります（DVR内部に新しいハードドライブがインストールされている場合は、使用前にドライブをフォーマットする必要があります）。

- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

**上書き:** これにより、ハードディスクが一杯になるとDVRは最も古い映像ファイルを上書きするように指示されます。上書き前に、上書き機能を無効にするか、イベントを残しておく日数を選択するかを選ぶこともできます。DVRのストレージ容量不足を防ぐために、デフォルトの選択をそのままにすることをお勧めします。

**HDDのフォーマット:** チェックボックスをクリックしてハードドライブを選択し、このボタンをクリックしてフォーマットを行います。すべてのデータが消去されることに注意を促すメッセージが表示されます。[OK]をクリックして続行します。

時々ハードドライブをフォーマットすることをお勧めします。これにより、DVRのシステムを完全な状態に保てるようになります。USBフラッシュドライブを接続して、保存するイベントをコピーします。ハードドライブをフォーマットす

ると、録画データがすべて消去されることに注意してください。

# デバイス:S.M.A.R.T

ID	属性名	ステータス	フラグ	属性値	最低値	口値	生データ値
0x1	Raw Read Error Rate	OK	f	100	100	51	0
0x3	Spin Up Time	OK	7	71	71	11	9970
0x4	Start Stop Count	OK	32	100	100	0	113
0x5	Reallocated Sector Ct	OK	33	100	100	10	0
0x7	Seek Error Rate	OK	f	100	100	51	0
0x8	Seek Time Performance	OK	25	100	100	15	10902
0x9	Power On Hours	OK	32	98	98	0	10682
0xa	Spin Retry Count	OK	33	100	100	51	0
0xb	Calibration Retry Count	OK	17	100	100	0	0
0xc	Power Cycle Count	OK	32	100	100	0	99
0xd	Read Soft Error Rate	OK	e	100	100	0	0
0xb7	Runtime Bad Block	OK	32	100	100	0	0
0xb8	End-to-End Error	OK	33	100	100	0	0
0xbb	Reported Uncorrect	OK	32	100	100	0	0
0xbc	Command Timeout	OK	32	100	100	0	0
0xbe	Airflow Temperature Cel	OK	22	57	57	0	43 (Min/Max: 14/43)

この機能を使用することによって、DVR内部にインストールされているハードドライブに関する技術情報を表示することができます。潜在的なドライブエラーの評価と検出を行うテスト（3種類のタイプが用意されています）も実行できます。

**セルフチェックタイプ:** 次の3種類のタイプが用意されています。

**ショート:** このテストでは、読み取り／書き込みヘッド、電子デバイス、内部メモリなど、ハードドライブの主要部品が検証されます。

**ロング:** このテストは上記の検証テストより長いバージョンで、サーフェススキャンを実行して問題のある領域を表示し(存在する場合)、不良セクタの再配置を強制的に実行します。

**コンペイアンス:** これは、ハードドライブの機械部品が正常に動作しているかどうかを確認するための非常に迅速なテストとなります。

テスト実行時、DVRはいつも通りに稼働し続けます。

ほとんどの場合、DVRの一般的な使用においてはこれらの情報は必要ありませんが、Swannのヘルプデスクおよびテクニカルサポートのスタッフにサポー

トを要請する際に、これらの情報が必要になる場合があります。

マウスを右クリックして終了します。

# デバイス:クラウドストレージ



DVRには、Dropbox™を利用してスナップショットや映像録画データをクラウドにコピーする機能があります。Dropbox™は、スナップショットや映像録画データを保存したり共有したりすることができ、必要に応じて常に手元に置いておくことができるサービスです。

→ [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。

→ [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

クラウド機能を起動する前に、DVR用のメールアドレスおよびパスワードと同じものを使用してDropboxアカウントを作成することをお勧めします。コンピュータの[www.dropbox.com](http://www.dropbox.com)にアクセスして、名前、メールアドレス、パスワードを入力し、諸条件に同意して、サインアップボタンをクリックします。

**有効化:** チェックボックスをクリックして有効にします。

**上書き:** 代わりに特定の期間を選択する場合は、ドロップダウンメニューをクリックします。

**映像の種類:** 再生互換性の既定の選択はそのままにしておきます。

**クラウドの有効化:** クリックしてアクティブにし、[OK]をクリックします。

**ストリームモード:** クラウドにコピーするサブストリームまたはメインストリームの高品質映像を選択する場合は、ドロップダウンメニューをクリックします。

1. アクティベーションリンクがメールアドレス(警告メールの受信に使用されるメールアドレス)に送信されました。

2. コンピュータでメールをチェックしてから、メール内のリンクをクリックして有効にします。

3. モバイルデバイス上のSwann Securityアプリを開き、[Menu]ボタン(左上)をタップしてから[クラウド]をタップします。表示されたデバイスをタップして、コンピュータに表示されているQRコードをスキャンします。アプリ内にコードが表示されますので、[承認]をタップします。承認が正常に完了したことを示すメッセージが表示されます。[OK]をタップして終了します。

クラウド機能が有効になっている状態で、DVRが警告を送信するように指示する必要があります。(20ページの「[アラーム:検知-アクション](#)」を参照してください)。

# システム:基本性能



→ [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。

→ [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

**デバイス名:** ダイアログボックスをクリックしてDVRの名前を変更します(必要に応じて)。

**言語:** システムメニューを表示する言語を選択します。複数の言語が利用可能です。

**映像フォーマット:** ご利用の国の正しい映像規格を選択します。米国やカナダはNTSC方式です。英国、オーストラリア、ニュージーランドはPAL方式です。

**メニュータイムアウト:** ドロップダウンメニューをクリックして、DVRがアイドル状態の時にメインメニューを終了する時間を選択します。[オフ]を選択すると、この機能を無効にすることもできます(パスワード保護は一時的に無効になります)。

**モード:** DVRはXVRと呼ばれる追加モードをサポートしています。これにより、ホームネットワークに接続済みのIPカメラを設定して、DVRで稼働させること

ができます。XVRモードは、この先のマニュアルアップデートでカバーされる予定です。

**ウォーターマーク:** デフォルトでは、Swannロゴが接続済みの各カメラのウォーターマークとして追加されます。必要ない場合は、ドロップダウンメニューをクリックして無効にします。

**ウィザードの表示:** DVRを稼働または再起動させるたびに起動ウィザードを表示させる場合は、チェックボックスをクリックします。

# システム:ユーザー



→ [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。

→ [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

DVRのパスワードを変更するには、[編集]ボタンをクリックします。パスワードは6文字以上で、数字と文字を組み合わせることができます。新しいパスワードをもう一度入力して確認します。

追加のユーザーアカウントも次の手順にしたがって有効にすることができます。

1. [user1]を選択し、[編集]ボタンをクリックします。
2. ドロップダウンメニューをクリックして有効にします。
3. ユーザー名とパスワードを入力します。
4. [保存]ボタンをクリックし、管理者パスワードを入力して[OK]をクリックして確認します。

権限の変更は、[権限]ボタンをクリックしてから、有効にするオプションを選択

します。すべてのオプションを選択するには、[すべて]のボタンをクリックします。[保存]ボタンをクリックしたら[OK]をクリックして確認します。

# 上級：維持



→ [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。

→ [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

**デフォルトユーザー:** Adminはデフォルトのユーザーアカウントです。複数のユーザーアカウントが作成されている場合は、ドロップダウンメニューをクリックして無効にします。

**自動再起動:** DVRの動作を完全な状態に保つため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。

**時間:** DVRを再起動する適切な日時を選択します。

**更新:** ファームウェアをUSBフラッシュドライブから更新するには、このボタンをクリックします。ファームウェアファイルを選択し、[OK]をクリックして確認します。ファームウェアのアップデートが完了すると、DVRは自動的に再起動されます。

**保存の設定:** カスタマイズしたすべての設定を含む構成ファイルをエクスポートするには、このボタンをクリックします。

**デフォルトのロード:** 工場出荷時のデフォルト設定を復元するには、このボタンをクリックします。[すべて]をクリックして[保存]をクリックします。DVRが再起動し、起動ウィザードが画面上に表示されます。

**設定のロード:** カスタマイズしたすべての設定を含む構成ファイルをインポートするには、このボタンをクリックします。

# 上級：イベント



イベントが発生したり、DVRが異常動作を表示したりする場合はいつでも、メールの受信、画面上でのメッセージの表示、Swann Security アプリでの警告の受信、内部ブザーの有効化など、多様な方法で通知を受けることができます。DVRが例外として検知するイベントは3種類あります。

→ [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。

→ [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

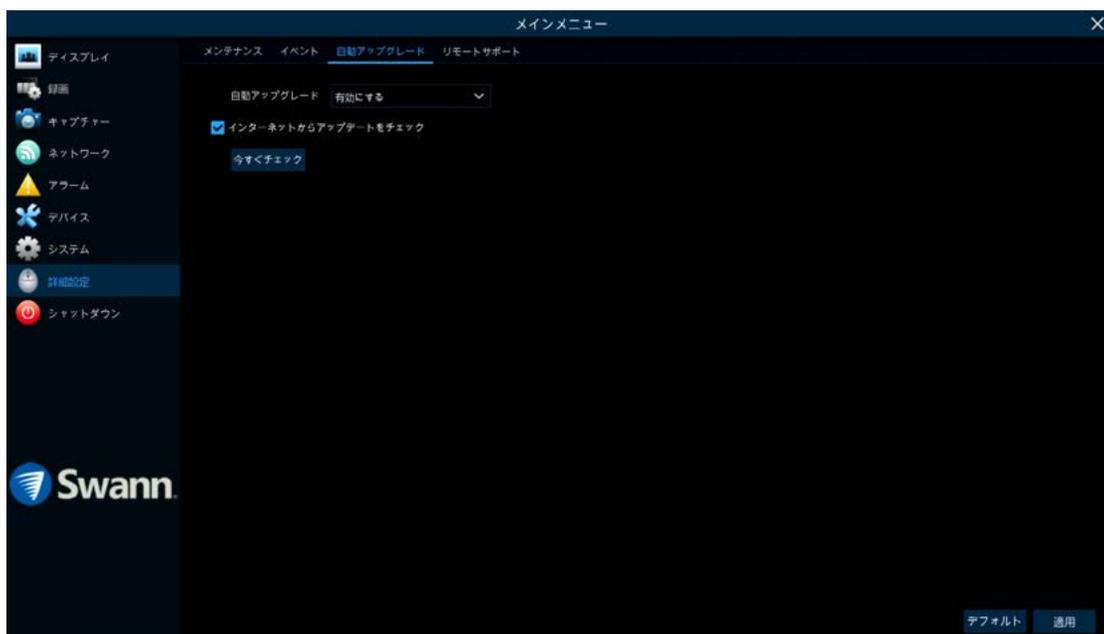
**有効化:** 使用可能なイベントの警告を無効にする場合はチェックボックスをクリックします。

**ブザー:** ドロップダウンメニューをクリックし、内部ブザーの期間を選択して、使用可能なイベントを有効にします。

**メッセージの表示:** 使用可能なイベントに対する画面上のメッセージを無効にする場合は、チェックボックスをクリックします。

**メールの送信:** 使用可能なイベントの警告メールを無効にする場合はチェックボックスをクリックします。

# 上級：自動アップグレード



- [デフォルト]をクリックすると、デフォルト設定に戻ります。
- [適用]をクリックすると、設定が保存されます。

**自動アップグレード:** デフォルトでは、アップグレードが可能な場合、DVRは自動的に新しいファームウェアをダウンロードしてインストールします。この機能を無効にする場合は、ドロップダウンメニューをクリックします。

**インターネットで更新を確認:** デフォルトでは、新しいファームウェアがダウンロード可能な場合、DVRは自動的にチェックして、警告を実行します。この機能を無効にする場合はチェックボックスをクリックします。

**今すぐ確認:** このボタンをクリックして、新しいファームウェアが使用可能かどうかを確認します。新しいファームウェアが使用可能な場合は、画面の指示に従ってください。

## システムステータス

さまざまなステータスタブでは、DVRで機能するために選択されたさまざまな設定やオプションの概要が表示されます。DVRが実行するアクションと検知されたイベントがログに記録され、検索して表示することが可能になります。ヘルプデスクにお問い合わせいただく際、お客様が抱えている技術的な問題の解消のために、スタッフがお客様にこれらのステータスタブにアクセスするよう依頼することがございます。



# システム:情報



このタブには、DVRの技術的な情報とデバイスID、QRコードが表示されます。ヘルプデスクにお問い合わせいただく際、お客様が抱えている技術的な問題の解消のために、スタッフがお客様にこのタブにアクセスするよう依頼することがございます。

**MACアドレス:** 現在のパスワードを忘れた場合は、これを回復パスワードとして使用できます。

ヘルプデスクにお問い合わせいただく際、お客様が抱えている技術的な問題の解消のために、スタッフがお客様にこのタブにアクセスするよう依頼することがございます。

# システム:チャンネル情報



チャンネル	エイリアス	状態	メインストリーム	サブストリーム	PIR検出	プライバシーゾーン
CH1	Channel 1	有効にする	1920x1080, 15fps, 4Mbps	352x 288, 4fps, 96Kbps	対応	対応
CH2	Channel 2	有効にする	1920x1080, 15fps, 4Mbps	352x 240, 4fps, 96Kbps	未対応	対応
CH3	Channel 3	有効にする	1920x1080, 15fps, 4Mbps	352x 240, 4fps, 96Kbps	未対応	対応
CH4	Channel 4	有効にする	1920x1080, 15fps, 4Mbps	352x 240, 4fps, 96Kbps	未対応	対応
CH5	Channel 5	有効にする	1920x1080, 15fps, 4Mbps	352x 240, 4fps, 96Kbps	未対応	対応
CH6	Channel 6	有効にする	1920x1080, 15fps, 4Mbps	352x 240, 4fps, 96Kbps	未対応	対応
CH7	Channel 7	有効にする	1920x1080, 15fps, 4Mbps	352x 240, 4fps, 96Kbps	未対応	対応
CH8	Channel 8	有効にする	1920x1080, 15fps, 4Mbps	352x 240, 4fps, 96Kbps	未対応	対応

接続済みの各カメラで使用されるメインストリームおよびサブストリームの設定を表示します。

ヘルプデスクにお問い合わせいただく際、お客様が抱えている技術的な問題の解消のために、スタッフがお客様にこのタブにアクセスするよう依頼することがございます。

マウスを右クリックして終了します。

# システム:録画情報



The screenshot shows a web interface for Swann system management. The '録画情報' (Recording Information) tab is selected, displaying a table of recording settings for eight channels (CH1 to CH8). The table columns include Channel, Recording Status, Recording Enabled, Stream Type, FPS, Bitrate, and Resolution. The Swann logo is visible in the bottom left corner of the interface.

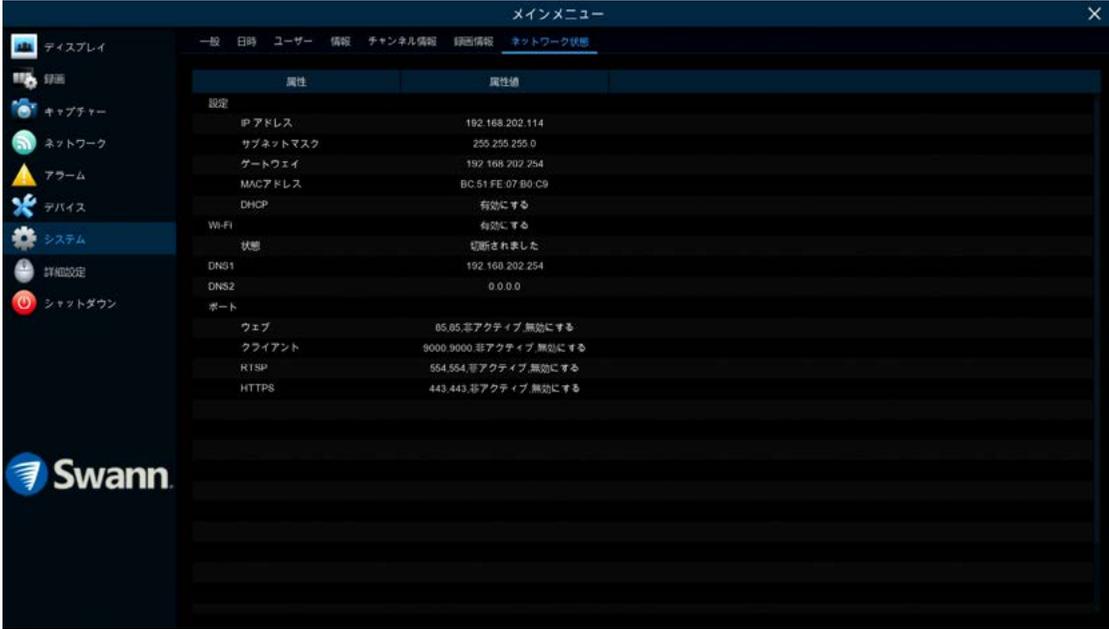
チャンネル	録画状態	録画を有効	ストリームタイプ	FPS	ビットレート	解像度
CH1	オン	有効にする	デュアルストリーム	15Fps   4Fps	4Mbps   96Kbps	1920x1080   352x288
CH2	オフ	有効にする	デュアルストリーム	15Fps   4Fps	4Mbps   96Kbps	1920x1080   352x288
CH3	オフ	有効にする	デュアルストリーム	15Fps   4Fps	4Mbps   96Kbps	1920x1080   352x288
CH4	オフ	有効にする	デュアルストリーム	15Fps   4Fps	4Mbps   96Kbps	1920x1080   352x288
CH5	オフ	有効にする				
CH6	オフ	有効にする				
CH7	オフ	有効にする				
CH8	オフ	有効にする				

接続済みの各カメラの録画設定を表示します。

ヘルプデスクにお問い合わせいただく際、お客様が抱えている技術的な問題の解消のために、スタッフがお客様にこのタブにアクセスするよう依頼することがございます。

マウスを右クリックして終了します。

# システム:ネットワーク状態



属性	属性値
設定	
IPアドレス	192.168.202.114
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.202.254
MACアドレス	BC:51:FE:07:80:C9
DHCP	有効にする
WiFi	
状態	切断されました
DNS1	192.168.202.254
DNS2	0.0.0.0
ポート	
ウェブ	85.85.非アクティブ,無効にする
クワイアント	9000.9000.非アクティブ,無効にする
RTPSP	554.554.非アクティブ,無効にする
HTTPS	443.443.非アクティブ,無効にする

DVRで使用されているネットワーク設定を表示します。

ヘルプデスクにお問い合わせいただく際、お客様が抱えている技術的な問題の解消のために、スタッフがお客様にこのタブにアクセスするよう依頼することがございます。

マウスを右クリックして終了します。

# 用語集

**3Dノイズフィルター:** デジタルノイズ低減機能の拡張タイプです。技術の進歩によって、低照度時でも画像から効果的にノイズを取り除くことができます。

**50ヘルツ:** 英国、オーストラリア、ほとんどの欧州諸国で使用されているメインの周波数です。

**60ヘルツ:** 米国、カナダ、いくつかの中南米諸国で使用されているメインの周波数です。

**AGC (自動利得制御):** 低照度時に、カメラは自動的に利得制御を上げて人物や物体がより鮮明に見えるようにします。この技術には、カメラがさらなる低照度時でも画像を生成するというメリットがあります。デメリットとして、増幅によって映像のノイズが目立ってしまうことが挙げられます。

**AHD:** 同軸ケーブルを使用して、HD映像を防犯カメラからDVRへ送信するアナログの高解像度有線テレビ映像ビデオ監視規格です。AHDでは、720ピクセルおよび1080ピクセルのHD映像解像度がサポートされています。

**アンチフリッカー:** 蛍光灯は電源と同じ周波数で動作するため、カメラを通して表示されると輝度フリッカーが発生します。アンチフリッカーオプションを有効にすると、目に見えるフリッカーが減少または除去されます。

**アンチスマリング:** スミア効果とは、明るい光源から発せられた明るい垂直線が画像に現れることを意味します。特に逆光時の撮影で起こります。これを有効にすることにより、人物や物体は非常に明るい背景に対して正しく表示されるようになります。

**自動DNS(ドメインネームシステム):** ドメイン名を保管し、それらをインターネットプロトコルアドレスに変換するサービスです。たとえば、www.google.comはDNSサーバアドレスが74.125.224.72に設定されています。DNSサーバは、インターネットサービスプロバイダによって自動的に提供されます。

**オートフォーカス:** カメラのレンズを調整して、表示されている物体に焦点を

合わせます。

**帯域幅:** コンピュータネットワークでは、帯域幅はデータ転送速度の同義語として使用されます。これは、一定時間(通常は1秒)にあるポイントから別のポイントまで伝えられるデータの量です。ネットワーク帯域幅は通常ビット/秒(bps)で表されます。

**ビットレート:** DVRまたはNVRが映像を録画するために使用するデータの量です。ビットレートが高くなると、各録画のハードドライブの消費容量が増えていきます。これを増やすと、ストリーミング時に帯域幅の消費が多くなります。測定単位はMbps(1秒あたりのメガビット数)またはkbps(1秒あたりのキロビット数)です。

**BLC (逆光補正):** 光源の前にある物体の露出を改善します。これは画像全体を別々の領域に分割し、その領域に別々の露出レベルを適用することにより行われます。

**輝度:** これにより、画像の明るさが変わります。暗いところと日のあたる場所では、輝度の数値が異なります。例えば、車のヘッドライトの光は夜により明るく見えます。

**CDS:** これにより、カメラの光センサーによる画像の設定ができます。CDSセンサーとは、基本的にセンサーに当たっている光の量に応じて抵抗値(オーム)を変化させる抵抗器です。

**クラウド:** クラウドコンピューティングは、サーバーへ直接接続するのではなく、ウェブベースのツールおよびアプリを介してインターネットからリソースを取得する情報技術サービスを備えたモデルです。Dropbox、Google Drive、Microsoft OneDriveなどのサービスが、クラウドコンピューティングの一例として挙げられます。

# 用語集

**コンパウンドストリーム:** DVRまたはNVRが映像と音声を同時に記録していることを示します。

**コントラスト:** これにより、画像内の最も黒い黒と最も白い白の差が大きくなります。もしコントラストがなければ、明暗の違いがなくなるので、画像というものが存在しないことになるでしょう。

**隠し:** カメラは動きを検知してDVRやNVRの録画を開始しますが、ライブ表示モードではカメラの画像は表示されません。

**DDNS (動的DNS):** IPアドレスをホスト名に変換するサービスです(ホスト名はIPアドレスを覚えるよりもはるかに簡単です)。DHCPサーバーによって割り当てられた動的IPアドレスなどもサポートしています。通常、ISPの変更時にISPからIPアドレスが受信されるようになりますので、DDNSはホームネットワークには最適です。

**DHCP(動的ホスト構成プロトコル):** 適切なサーバーまたはルーターを使用して、ネットワークに接続済みのデバイスへのIPアドレスの動的割り当てを有効にします。

**画面解像度:** テレビまたはVGAモニターまたは表示デバイスの出力信号(たとえばDVRまたはNVR)によりサポートされているピクセル数です。

**DNSサーバー:** ウェブサイトやその他のインターネットドメインの公開名を管理するための標準技術です。DNS技術により、ウェブブラウザに名前を入力することで、コンピュータでインターネット上のアドレスを自動的に検索することができます。

**DST(サマータイム):** 1年の中で時計を1時間進める期間のことをいいます。

**デュアルストリーム:** DVRまたはNVRが同時にメインストリーム映像とサブストリーム映像の両方を録画するプロセス。

**フォーマット:** USBフラッシュドライブやハードディスクドライブなどのストレージデバイスがデータを保存できるようにするコマンドです。

**ファームウェア:** ディスクリットデバイス(たとえばスマートフォン)を稼働させるソフトウェア。デバイスを稼働させるのに不可欠なので、ソフトウェアよりもむしろこのように呼ばれます。

**フレームレート:** 映像信号を作成するために画像を表示するレートの測定値。測定単位は、1秒あたりのフレーム数(fps)です。

**ゲートウェイ:** ホームネットワーク上のデバイスからインターネットにアクセスできる外部ネットワークヘデータを転送するノードまたはルーターです。

**H.264+:** 大量の映像データには、より多くのストレージ容量が必要です。この問題を解決するには、映像圧縮技術を使用して画質を保ちつつデータを削減します。H.264+は、監視ビデオ向けの革新的なエンコード技術です。

**ハードウェア:** DVRまたはNVRのような物理的デバイス。

**HDD(ハードディスクドライブ):** DVRまたはNVRの内部にあるストレージデバイスです。すべてのデータが保持、保存、格納されている場所です。

**HTTP Port (ハイパーテキスト転送プロトコルポート):** このポートは、Internet ExplorerなどのウェブクライアントでDVRまたはNVR(使用可能な場合)のウェブブラウザインタフェースにログインするために使用されます。

**色相:** 通常、色と呼ばれるものと同じ意味です。色相を変更することによって、画像の色の混色を変更することができます。

**IPアドレス:** ネットワークに接続済みのデバイスのアドレス。ネットワーク上の各デバイスは、独自のアドレスを使用する必要があります。IPアドレスの範囲は0.0.0.0から255.255.255.255です。

**ライブ表示:** DVRまたはNVRのデフォルト表示モードです。接続済みの各カメラが画面上に表示されます。

# 用語集

**MACアドレス:** ネットワークハードウェアの独自の識別子です。現在のパスワードを忘れた場合は、スーパーパスワードとしても使用できます。

**メインストリーム:** DVRまたはNVRが表示して録画する映像ストリームです。

**マスク:** プライバシー保護のため、画像の一部を隠すために使用されます。DVRまたはNVRがモーションを検知したときの誤作動を最小限に抑えるためにも使用されます。隠されたエリアは、ライブで表示されたり録画されたりすることはありません。

**メニュー:** DVRまたはNVRで利用可能なさまざまなアクションやオプションを制御できます。

**モーション検知:** DVRまたはNVRがモーションを検知するために使用する主な手段で、セキュリティシステムにとって必要不可欠な機能です。映像のあるフレームを次のフレームと比較して行われます。この2つのフレームのある程度のずれがモーションと判断されます。

**NAS(ネットワーク接続型ストレージ):** ストレージが直接接続されたかのように、他のネットワークデバイスが利用できる1つまたは複数のHDDを備えたネットワークデバイス。

**NIC(ネットワークインタフェースコントローラ):** デバイスがネットワークに接続できるようにするハードウェアコンポーネント。それぞれの目的に対して、ワイヤードNICおよびワイヤレスNICがあります。

**NTP(ネットワークタイムプロトコル):** DVRまたはNVRのクロックをネットワークタイムサーバと自動的に同期させるために使用されます。ほとんどのタイムサーバはインターネットに接続されています。

**NTSC:** 北米、カナダおよびいくつかの中南米諸国で使用されている映像システムです。NTSCでは毎秒30フレームが送信されます。

**光学ズーム:** 真のズーム機能です。ズームイン(またはズームアウト)することにより、カメラのレンズで物体をより近くに表示させることができます。

**OSD(カメラの画面上での表示):** 時刻、日付、カメラ名といったカメラからの情報を画面上に表示します。

**オーバースキャン:** 主に旧型のテレビ受像機で使用され、表示可能エリア全体を画面上で正確に表示する機能です。画像の端をカットすることにより行われます。この機能は、正しいアスペクト比が表示されるように画像がデジタル処理されるものなので、最新のプラズマテレビや液晶テレビには必要ありません。

**ファイルの再生時間:** DVRまたはNVRが録画データを別々のファイルに分割するよう指示します。各ファイルは最大60分まで可能です。DVRやNVRは、これらを継続的な映像として再生します。

**PAL:** 英国、オーストラリア、ほとんどの欧州諸国で使用されている映像システムです。PALでは毎秒25フレームが送信されます。

**ポスト録画:** イベントが発生した後にDVRに一定期間録画するように指示が出されます。

**PPPoE(イーサネット上のP2Pプロトコル):** ルーターがISPにログインしてインターネット接続を有効にするために使用する最も一般的な方法です。この設定はDVRまたはNVRにもありますが、必要とされる設定が難しく、またモデム専用デバイス(またはモデム専用のモデムおよびルーター、またはいずれか)が必要なため、上級ユーザー向けとなっております。

**プレ録画:** イベントが発生する前に、数秒間DVRまたはNVRによる録画が可能です。

**プライバシーゾーン:** 詳細については「マスク」の部分を参照してください。

**解像度:** 画像を表示する細かさの測定単位。数値が大きいほど、より細かい部分まで表示することができます。

# 用語集

**RTSP (リアルタイムストリーミングプロトコル):** ネットワークとインターネットを介してリアルタイムで映像および音声情報を送信するように設計されたネットワークプロトコル。

**彩度:** これにより、画像に表示される色が変わります。彩度が高いほど、より明るい色とより鮮やかな色が表示されます。

**サーバーポート:** 論理的な接続場所で、厳密に言うと、インターネットプロトコルTCP/IPを使用した、クライアントプログラムがネットワーク内のコンピュータ上で特定のサーバプログラムを指定する手段です。

**SEQ:** DVRまたはNVRをシーケンスモードにします。これにより、ライブ表示モードでは各映像チャンネルが所定の時間繰り返して表示されます。

**S.M.A.R.T (セルフモニタリング・アナリシス・アンド・リポーティング・テクノロジー):** これは、潜在的なドライブエラーを発生前に自動的に検出するための最新のHDDとSSD上のシステムです。

**SMTP (簡易メール転送プロトコル):** これは、アウトバウンドメール(たとえば、DVRやNVRからメールアドレスへのメール)を送信するために使用されます。

**SMTPポート:** SMTPサーバーがメール送信要求を受信するために使用するポート番号です。これはメールプロバイダによって指定されます。

**SMTPサーバー:** これはSMTPに使用されるサーバーのアドレスです。通常、ウェブアドレス(たとえば、smtp.gmail.com)の形式です。

**ソフトウェア:** コンピューティングデバイス上で実行される一連のプログラム。

**SSID:** ワイヤレスネットワーク名の技術用語です。ワイヤレスネットワークをセットアップするときには、近隣の他のネットワークと区別するために名前を付けることができます。

**SSL (セキュアソケットレイヤ):** サーバーに接続するための安全な方法。DVR

またはNVRでは、主にメールサーバの接続に使用されます。

**静的:** IPアドレスでいう「静的」とは、デバイスのIPアドレスが手動で入力されたことを指します。インターネットアクセス用にUIDがない古いデバイスで使用される場合があります。

**静的DNS:** 状況次第で、インターネットサービスプロバイダがルーター上の自動DNSの代わりに静的DNSを使用するように求めてくる可能性があります。

**サブストリーム:** DVRまたはNVRがネットワークまたはインターネットを介してリモートデバイスに送信する映像ストリームです。映像画質が低下して、送信されやすくなります。

**サブネットマスク:** IPアドレスのどの部分がネットワークの場所なのかを定義するために使用されます。

**タイムサーバー:** 基準クロックから実際の時間を読み取り、ネットワーク上のクライアントに情報を配信するサーバーです。

**タイムゾーン:** 法的、商業的、社会的目的のために同じ標準時を使っている地域です。密接に連絡を取り合っている地域では時刻が同じになるので便利です。

**タイムスタンプ:** ある出来事が発生した日時を特定する一連の文字またはエンコードされた情報です。通常はその日の日付と時刻が示されますが、わずかな秒単位まで正確に表示されることもあります。

**TVI:** HDセキュリティカメラで使用される映像用のデジタル信号処理および伝送技術です。TVIカメラは現在、従来のアナログCCTVカメラで使われている同軸ケーブル接続技術を使用して、1080pの映像解像度をサポートしています。

# 用語集

**UID (一意識別子):** 特定のシステム内の単一体に関連付けられた英数字の文字列です。UIDをモバイルアプリまたはコンピュータソフトウェアに入力することによって、IPアドレスまたはポート番号を覚えることなくDVRまたはNVRとやりとりすることができます。

**UPnP(ユニバーサルプラグアンドプレイ):** リモートアクセスを目的として、ネットワーク接続済みのデバイスがルーターを自動的に構成できるように設計されたネットワークプロトコル。UIDを使用するときに有効にする必要はありません。

**VCA (映像解析):** イベントをきっかけとして録画を開始するための新しい方法です。これは、DVRまたはNVRの画像処理システムを使用して、録画用の特定の要因(たとえば、線を越える、または侵入)を設定します。このシステムは多くの処理能力を使用するため、すべてのデバイスで使用できない可能性があります。

**ビデオロス:** 潜在的なアラームイベントとみなされ、DVRまたはNVRが映像入力からの有効映像信号を受信しないときにはいつでも発生すると考えられています。

**映像画質診断:** カメラの画像がぼやけたり、異常に明るかったり、またはカメラのライティングとホワイトバランスが原因で画像に望ましくない色合いがある場合(カラーキャストと呼ばれます)、DVRまたはNVRが警告を發します。

**ビデオストリーム:** DVRまたはNVRがビデオストリームのみを録画していることを示します。

**WDR(ワイドダイナミックレンジ):** ダイナミックレンジが広い画像のバランスをとるための技術です。この状況の例として、屋内カメラが窓または建物の入り口を向いている場合が挙げられます。日中にカメラにより撮影された画像は、入ってくる光の輝度が高くなるため、極端に白っぽくなってしまいます。

# 保証に関する情報

## 米国

Swann Communications USA Inc. 12636 Clark  
Street Santa Fe Springs CA 90670 USA

## オーストラリア

Swann Communications Suite 5B, 706 Lorimer  
Street Port Melbourne Vic 3207 Australia

## 英国

Swann Communications LTD. Stag Gates House  
63/64 The Avenue SO171XS United Kingdom

## 保証条件

Swann Communicationsは、当初の購入日から1年間、本製品の製造および材料上の欠陥について保証します。保証を確認するには、領収書を購入日の証明として提示する必要があります。定められた期間中に欠陥があると証明されたユニットは、部品費または人件費を請求することなく修理されるか、またはSwannの独自の判断で交換されます。エンドユーザーは、製品をSwannの修理センターに発送するために発生したすべての輸送費に対して責任を負います。エンドユーザーは、原産国以外の国との間で出荷する際に発生するすべての輸送費に対して責任を負います。

保証は、本製品の使用または使用不能から生じる偶発的、付随的または間接的な損害には適用されません。商売人または他人による本製品の取り付けまたは取り外しに関わるすべての費用、またはその使用に関連する他の費用はすべてエンドユーザーの責任となります。この保証は、製品の当初購入者にのみ適用され、第三者に譲渡することはできません。権限のないエンドユーザーまたは第三者により何らかのコンポーネントが変更された場合、またはデバイスの誤用または乱用が認められた場合、すべての保証が無効となります。

法律により、一部の国ではこの保証の特定の除外に対する制限を認めていません。現地の法律により適用される場合は、規制および法的権利が優先されます。

**オーストラリア向け:** 当社の商品には、オーストラリア消費者法の下では除外されない保証が付いています。ユーザーは重大な故障を対象とした交換または返金、さらにその他の理に適った範囲での予見可能な損失または損害の補償を受ける権利を有します。また、商品が許容できる品質ではなく、重大な故障に至らない場合、商品の修理または交換を受ける権利も有します。

# ヘルプとリソース

Swannサポートセンター[support.swann.com](https://support.swann.com)までアクセスしてください。専用のカスタマーサポートへの製品の登録、ガイドのダウンロード、よくある質問に対する回答の検索などができます。



製品登録



カスタマーサポート



製品マニュアル



よくある質問



サポートコミュニティ



**ご意見、ご感想をお寄せください!**

案内書の品質向上に向けて日々努力していますので、フィードバックをお願いいたします。  
[ここをクリックして短いアンケートにご協力ください。](#)



ファームウェアのバージョン: V8.1.0-20190525

M4580V\_REV1J120819 | © Swann 2019